

住民組織による

地域の支え合い活動事例集

平成23年度地域支え合い活動
モデル調査研究事業報告書
(地域保健福祉課委託団体)



平成24年9月
神奈川県

平成23年度地域支え合い活動モデル調査研究事業について

少子高齢化の進展や家族・地域内でのつながりの希薄化等を背景に、高齢者等の孤立など様々な地域の課題が生じています。

とりわけ、日常的な買い物等が困難な高齢者等（いわゆる「買い物弱者」）や、安否確認などの「見守り」が必要な高齢者等に対する生活支援が課題となっています。

また、東日本大震災を契機に、地域住民による日頃の支え合いの大切さが再認識されたところです。

そこで、県では、自治会や町内会、住民組織等の団体の中から地域における支え合い活動に意欲のある団体に委託して、地域の支え合い体制づくりの活動モデルとして調査研究事業を実施し、そこで得られた有効な方法や成果等を広め、地域の支え合い体制づくりをすすめることとしました。

延べ42団体が、地域の支え合い体制づくりの活動モデルとして、新たな事業を立ち上げ、または、今までの活動を充実強化させる取組みを実施し、その内容をご報告いただきました。

これらの報告が、これから地域支え合い活動を立ち上げたい方、今までの活動をもっとよくしたいと考えている方など多くの方に知っていただき、御活用いただければ幸いです。

目 次

※事業内容

○：高齢者の孤立防止交流活動 ◆：高齢者の見守り活動

▲：要援護者の災害時支援 □：その他

※実施期間

I：第一期（平成23年12月14日～平成24年 3月26日）

II：第二期（平成24年 1月13日～平成24年 3月26日）

番号	市町村	所在地	団体名	タイトル	事業内容	実施期間	ページ
1	横浜市	神奈川区菅田町	西菅田団地自治会	高齢者の交流の場の充実とあんしん登録制度の立ち上げ	○◆▲	I	4
2	横浜市	神奈川区神大寺	南神大寺団地自治会	個人情報等の地域活動における今日的な課題への取り組み	○◆▲□	II	6
3	横浜市	港南区港南台	ちどり団地自治会	安心・安全・健康のためにサロン・講習会・安否確認	○◆□	I	8
4	横浜市	保土ヶ谷区川島町	くぬぎ台団地自治会	高齢者の交流の充実・防災訪問	○◆▲	I	10
5	横浜市	保土ヶ谷区明神台	コンフォール明神台自治会	「歌っておしゃべりをする交流の場」を立ち上げ	○	I	12
6	横浜市	旭区上白根	西ひかりが丘団地自治会	住民間の親睦を目的に交流サロンを立ち上げ	○	I	14
7	横浜市	磯子区洋光台	洋光台北団地一街区自治会	これからのニーズに備えた買い物サポート活動の立ち上げ	□	I	16
8	横浜市	港北区日吉本町	コンフォール南日吉自治会	一人暮らし・子育てママ・障がい児 孤立防止の取り組み	○□	I	18
9	横浜市	都筑区仲町台	特定非営利活動法人五つのパン	高齢者の生きがいと精神障害者の地域参加のきっかけ	□	I	20
10	横浜市	栄区公田町	公田町団地自治会	健康づくりをキーワードとした交流の取り組み	○	I	22
11	横浜市	栄区飯島町	飯島団地自治会	安否確認訓練や健康維持・認知症対策の取り組み	○▲	I	24
12	横浜市	瀬谷区橋戸	アーバンドエル瀬谷自治会	高齢者の交流の場を増やす取り組み	○	I	26
13	川崎市	川崎区池上新町	池上新町町内会	世代を超えた支え合いと絆 高齢者支援・緊急時の備え	○▲	I	28

目 次

※事業内容

○：高齢者の孤立防止交流活動 ◆：高齢者の見守り活動

▲：要援護者の災害時支援 □：その他

※実施期間

I：第一期（平成23年12月14日～平成24年 3月26日）

II：第二期（平成24年 1月13日～平成24年 3月26日）

番号	市町村	所在地	団体名	タイトル	事業内容	実施期間	ページ
14	川崎市	川崎区鋼管通	鋼管通2丁目自治会	住民による住民相互の見守り体制づくり	◆	I	30
15	川崎市	宮前区菅生ヶ丘	鷺ヶ峰西住宅自治会	目的を持って集まれる「文化クラブ」を立ち上げ	○	I	32
16	川崎市	宮前区南平	南平友愛会	老人会主体で団地の交流サロンを立ち上げ	○	I	34
17	川崎市	麻生区百合丘	百合ヶ丘みずき街自治会	高齢者支援のために交流の場づくり等の取り組みを充実	○	I	36
18	相模原市	中央区光が丘	上溝団地連合自治会	住民の交流の場として映画会を立ち上げ	○	I	38
19	相模原市	中央区横山	横山6丁目自治会	カラオケ・麻雀・農業体験等の交流の場作り	○	II	40
20	相模原市	中央区相模原	東第一自治会	マンション林立地域自治会での交流の場作り・災害対策	○ ▲	II	42
21	相模原市	中央区上溝	自治会法人本町自治会	カラオケ等で自治会館を交流の場として活用する取り組み	○	II	44
22	相模原市	南区相南	自治会法人翠ヶ丘自治会	高齢者の交流の場の充実のためにミニ映画会を立ち上げ	○	I	46
23	相模原市	南区古淵	新淵第二自治会	高齢者支援のためのデータベース作成	□	I	48
24	相模原市	南区相武台団地	自治会法人相武台団地連合自治会（第一自治会～第五自治会が合同で実施）	災害時への備えと普段の見守りの充実	▲	I	50
25	平塚市	横内	横内団地連合自治会	立ち上げて間もないふれあいサロンを充実させる	○	I	52
26	平塚市	大神	大神地区町内福祉村「大神よりきの郷」	災害時及び平常時の要援護者支援体制の確立	▲	II	54

目次

※事業内容

○：高齢者の孤立防止交流活動 ◆：高齢者の見守り活動

▲：要援護者の災害時支援 □：その他

※実施期間

I：第一期（平成23年12月14日～平成24年 3月26日）

II：第二期（平成24年 1月13日～平成24年 3月26日）

番号	市町村	所在地	団体名	タイトル	事業内容	実施期間	ページ
27	鎌倉市	山崎	レーベンスガルテン山崎自治会	新しい団地に交流の場をつくる	○	I	56
28	藤沢市	善行団地	善行団地自治会	カラオケの参加者を増やす取組み	○	I	58
29	藤沢市	藤が岡	コンフォール藤沢自治会	パソコン教室・料理教室の立ち上げ	○	I	60
30	藤沢市	辻堂西海岸	辻堂団地自治会	交流サロンと災害時対策を充実させる取組み	○ ▲	I	62
31	茅ヶ崎市	鶴が台	鶴が台団地自治会	新たな連携体制で災害時に備えた取組みを行う	▲	I	64
32	茅ヶ崎市	浜見平団地	浜見平団地自治会	子どもや高齢者が気軽に集える場作り	○	I	66
33	茅ヶ崎市	浜見平団地	浜見平団地自治会	新たなふれあいの場を立ち上げ、発会式でPR	○	II	68
34	逗子市	山の根	山の根自治会	住民の力が活かされた交流活動・災害対策	○ ▲	II	70
35	厚木市	森の里	森の里地区地域福祉推進委員会	住民ニーズに対応したボランティアチームの立ち上げ	□	I	72
36	厚木市	王子	王子三丁目自治会	買い物支援から住民の交流へつなげる取組み	○ ◆	I	74
37	大和市	上和田	上和田団地自治会	広く知ってもらうことで福祉活動を広げる取組み	□	II	76
38	南足柄市	塚原	pp@sei sho（ピーピーアットセイショウ）	遊びをとおして子どもと高齢者の交流	□	II	78

高齢者の交流の場の充実とあんしん登録制度の立ち上げ

横浜市神奈川区・西菅田団地自治会

地域の概要

地域名 西菅田団地（横浜市神奈川区菅田町）

交通 : JR横浜線鴨居駅からバス

住宅の状況 : 集合住宅5階建 53棟 1,350戸

人口 : 2,701名 65歳以上872名 (32.3%) 75歳以上306名 (11.3%)

地域の概況 : 昭和46年10月入居開始。団地内は坂道や階段が多い。団地の周辺は畑や樹木が多く環境はよいが、交通の便はあまりよくない。また、高齢化も進んでいる。移住者（外国人）も増えつつある。

課題

○住民の高齢化がますます進む一方、一部の住民に無関心派が増えている。これらの層の住民をいかに参加させるかが課題。

取組みのきっかけ

○第一に取り組まなければならないことは高齢者対策、付随して障害者対策、要援護者対策。既に実施している事業の拡大・充実を図ると共に、必要性がありながら実施できていない新規の事業についても立ち上げることと判断した。

取組みの内容

取組みの概要

- 高齢者の交流のため、お茶飲み会、食事会、サロン活動等を充実。
- 独居高齢者の見守りのため、あんしん登録制度を立ち上げ、“あんしん登録カード”を作成・整備。UR都市再生機構（横浜住宅管理センター）と連携して行う。
- 災害時要援護者対策の事業を立ち上げ。参考資料の収集。講習会等

開催回数等（実施期間 H23. 12. 14～H24. 3. 26）

- お茶飲み会
第2月曜
- 食事会
第4木曜
- サロン活動
第1、第3木
- あんしん登録
平成24年2月2日から3月24日まで 49件
「安心カード」を使用する状況 0件
- 防災関連のビデオ上映・三角巾講習会
約200名参加

成果

- 参加した高齢者は、“知り合い” “友人” を作る事ができた。
- 安心カード登録は、対象者の5～6%程度の登録。発足早々としてはある程度の評価はできる。
- 実技講習、映像を使用した講習は効果的であった。

取組みを実施した中で注意した点・工夫した点

①交流の場を充実

- 食事会では、調理器具等を整備し、メニューを増やし、また温かいうちに出す事ができるようにした。
- 食器は従来紙皿、紙コップで代用していたが、陶器皿や湯飲みにしたことで、参加者に喜ばれた。
- サロン活動では、講習会を実施した。（「葬儀について」28名参加）



②あんしん登録制度を立ち上げ

- UR横浜住宅管理センターと協議を行った。
- 登録できる方は、原則として70歳以上の世帯の方。ただし、ひとり暮らしの方・身体障害者の方・病気を患っている方等は、70歳未満でも登録できる。
- 登録者は安心カードを管理サービス事務所に提出する。自治会も共有する。（取扱担当者を決める。）
- あわせて、旅行や入院等で、1月未満住宅を不在にする際に提出してもらう「短期不在届」の制度も開始。



平成24年度以降の取組み

- 食事会のレパトリーを増やす。
- ボランティアへのスキルアップ講習会を実施する。
- あんしん登録制度は、掲示板を使っでの広報活動だけではなく、高齢者宅へ直接、広報（案内状）をポスティングする等して登録者を多くするよう努める。
- 閉じこもりがちな高齢者の参加を増やす方法を検討する。
- 要援護対象者の把握を行う。対象者のマップの作成に着手する。

取組みを継続するための課題等

- 個人情報保護法を盾とされて情報の入手困難なこと。

個人情報等の地域活動における今日的な課題への取り組み

横浜市神奈川区・南神大寺団地自治会

地域の概要

地域名 UR南神大寺団地（横浜市神奈川区神大寺）

交通 : 東急東横線反町駅、横浜市営地下鉄三ツ沢下町駅、片倉町駅からバスあるいは徒歩15分。

住宅の状況 : 集合住宅（大半は11階建）15棟

人口 : 推定2500名 世帯 : 推定1400世帯

地域の概況 : 農村地域である神大寺に建設された昭和49年入居開始約1400世帯居住の大型賃貸住宅。単身世帯の入居者も多い。住民同士のきずなは一部を除いて弱く、お互いに顔見知りになる機会が乏しい。毎年、複数件数の孤独死発生の話も見聞される。居住世帯数、人口等はデータが公開されず不明。

課題

- 地域住民が知り合える機会が少なく、孤立、無縁が日常的になっている。
- 地域の支え合いを推進してくためには、平常時からの取り組みが大切だが、束縛されることを好まない都市型現代人の気質をどのように受け止めていくのが課題。

取り組みのきっかけ

- 団地敷地内に、ふれあいサロンが設立（平成23年7月）されたものの、支え合い、助け合いの土壌がまだない。
- 平常時から顔の見える関係づくりや個人情報保護の制約の対応方法等、どこにでも見受けられそうな課題に取り組みたい。

取り組みの内容

取り組みの概要

- きずなの会
ラジオ体操、近隣の公園までの散歩会
- 災害時の安否確認模擬訓練
- 個人情報保護の制約を乗り越える情報共有の仕組みづくりの検討
- 福祉学習会の実施
知的障害、認知症の理解を深める
- 体の不自由な人でも参加しやすいバス旅行の実施
リフト付バスで旅行

開催回数等（実施期間 H24. 1. 13～H24. 3. 26）

- きずなの会
散歩会 事前申込12名（雨天中止）
- 安否確認模擬訓練 25名参加（他児童24名）
3月11日（日）
- 福祉学習会 2回開催 延べ30名参加
3月2日（金）13:30～15:30 知的障害
3月15日（木）13:30～15:30 認知症
- バス旅行 19名参加。
3月25日（日）鎌倉・三浦半島方面

成果

- 機会・場を創出することにより、潜在的に感じていた住民の意見が出るようになった。
- 住民の自主的な活動への参加者増。
- 様々な機会でも個人情報の共有についての意見を聞く事が出来た。

取組みを実施した中で注意した点・工夫した点

①参加の機会の創出

○毎日のラジオ体操・近隣の公園までの散歩会
できるだけ参加しやすいよう、束縛しないようにハードルを下げた呼びかけ（当日参加可能、体力のない人の参加も可能等）を行った。

ラジオ体操は参加者倍増。散歩会12名の申込みあり。

○災害時の安否確認模擬訓練

団地自治会単独での、初めての災害時への取組みのため、模擬訓練として、委員・役員に協力を求め、試行的に実施した。

終了後、自発的に災害に対する取組みの意見交換の場となった。

○リフト付バスでの旅行

ゆったりスケジュール旅行で、闘病経験者、杖使用者の参加があった。



②個人情報と情報共有の検討

○登録票の設計。モデル事業推進会議委員（区社協、市職員、地域包括支援センター、団地内サロン運営の法人、学識経験者等）に意見をいただき、更に住民で検討した。

○本人情報の開示の可否を、項目ごとに本人に判断してもらい（例 誰でもOK、自治会役員、自分が承認した人のみ）情報の共有レベルに段差をつけることにより、住民の安心感を得ることができ、実現可能な仕組みをつくることができた。なお、実施にむけては更なる検討が必要である。

○本人の承諾がなければ重要な個人情報となることの理解が進んだ。（例 若い女性にとって「一人暮らし」であることも知られたくない重要な個人情報であること。）

○個人情報共有について、知られたくない率直な感情の観点からも検討した。

平成24年度以降の取組み

○自治会総会で承認を得て正式に「きずなの会」を設置し、活動メニューを増やす。

○毎年3月11日近辺の日曜日に団地住民全体に声をかけ、避難訓練を行うべく検討する。自治会が既に作成している安否確認カードとの連携を図りたい。

○福祉学習会は継続開催。参加者拡大のため、土曜、夜間の開催も今後検討。

○体の不自由な人でも参加しやすいバス旅行は一自治会主催での実施は、コスト面から困難であることから、別の方法で検討。

取組みを継続するための課題等

○活動場所として定例的に利用できる拠点（日常的な井戸端会議のようなたまり場の交流スペース）が必要。

○自治会活動は、運営に関する課題別の研修の場がほとんどないことが実態としてわかった。

○年々低下する自治会加入率低下に対する加入率増加に向けてのノウハウを学ぶ場、無関心層への働きかけの研究は一自治会レベルでは困難である。

安心・安全・健康のためにサロン・講習会・安否確認

横浜市港南区・ちどり団地自治会

地域の概要

地域名 ちどり団地（横浜市港南区港南台）

交通 : JR根岸線港南台駅から徒歩15分

住宅の状況 : 集合住宅11階建 10棟 984戸

人口 : 1,550名

地域の概況 : 昭和49年12月入居開始。当時は駅近くには何もなく、道路はドロ道で坂が多く、一つ前の洋光台の駅でないと買い物ができなかった。若い世帯持ちが多かった。現在は、駅前にダイエー、高島屋等があり、買い物に便利。学校や公共施設も近い。高台のため、景色がよく富士山が見える。緑が多く野鳥が一年中楽しめる。

課題

○団地住民の高齢化

取組みのきっかけ

○サロンの参加者から健康が気になるといった声が聞かれていた。

取組みの内容

取組みの概要

- 交流の機会を増やすと共に、健康への関心が高められるようサロン活動を充実させる。
- 高齢者等の活動の場を広げる。
園芸部の協力を得て、団地の花壇作りを企画し、参加者を募集した。（悪天候のため中止となった）
- 高齢者の防災意識を高めるために防災講習会を実施する。
- 安否確認。
安否確認用のマグネットシートを各戸配布。平時は、ドアの内側に、非常時はドアの外側に貼ってもらうこととした。

開催回数等（実施期間 H23. 12. 14～H24. 3. 26）

- サロンの充実
金曜日10:00～12:00
5回開催 100人参加
- 花壇作り
3月23日（金）10:00予定（中止）
- 防災講習会の実施
3月18日（日）10:00～ 25人参加
- 安否確認
984世帯

成果

- 健康管理に興味関心を持つことができた。
- 行事に参加し、楽しみや情報があるので“安心”との声があった。

取組みを実施した中で注意した点・工夫した点

①サロン活動の充実

- サロンの参加者から健康が気になるといった話が出ていることを受け、血圧計を設置した。
- 何回かで操作に慣れ、活用されている。
- 今まではお茶を出していたが、コーヒーも飲むようにコーヒーメーカーを置く。大勢の方が一緒に楽しめるのがよいと喜ばれている。



②楽しく学ぶ

- 防災講習会
防災ビデオの上映と落語家を呼んでの落語会を開催した。
- 途中コーヒータイムをもうけてなごんだところで落語会とした。役に立ち、楽しい会となった。



平成24年度以降の取組み

- これからも健康につながる楽しい企画をしていく。
- プロジェクターの活用による映写会。

取組みを継続するための課題等

高齢者の交流の場の充実・防災訪問

横浜市保土ヶ谷区・くぬぎ台団地自治会

地域の概要

地域名 くぬぎ台団地（横浜市保土ヶ谷区川島町）

交通 : 相鉄線鶴ヶ峰駅からバス約5～6分。または徒歩15分。

住宅の状況 : 集合住宅5階建 39棟 1,033戸

人口 : 2024名 65歳以上755名 (37.3%) 75歳以上294名 (14.5%)

地域の概況 : 昭和46年9月 (984戸) + 平成4年4月 (49戸) の1033戸。坂はあり。緑に囲まれた静かな団地。築40年を迎え少子高齢化。出入りがあっても時期的なもの、落ち着いている。平成24年夏頃にはコンビニとジャパンケアの連携事業が開店する。小学校は平成25年に統廃合される。

課題

○高齢者の一人暮らしは、話す機会や触れ合う機会が少ない。

取組みのきっかけ

○戸外に出て友達づくりを奨励するため、交流サロンを開催しているが、更なる充実を図りたい。

取組みの内容

取組みの概要

○高齢者交流サロンの充実。

○防災訪問

70歳以上の一人暮らしの方(100人)の安否確認を行う。防災に関する聞き取りアンケートを実施。また、災害・事故時の連絡先を災害連絡カードに記入し、緊急用の笛をつけて本人に戻す。

開催回数等 (実施期間 H23. 12. 14~H24. 3. 26)

○交流サロン

2月4日(土) 13:30~15:30 30名参加

3月25日(日) 13:30~15:30 30名参加

○防災訪問

毎年2月を防災訪問月間として実施。

各街区毎に担当し、総数29名。

自主防災委員会と連携。

成果

○サロンは開設するたびに新たな参加者があった。少しずつだが男性の参加者が増えている。

○参加者の変化にも気づく。

取組みを実施した中で注意した点・工夫した点

①交流サロンの充実

- カラオケセットを新たに設置。カラオケは全員合唱とした。
- ハーモニカ演奏会、ケアプラザ所長から施設紹介や、認知症の話等を行った。
- お茶とお菓子を出す。参加者が気兼ねしないように有料とした。(参加費は100円。)
- 広報は、回覧、自治会ニュースの他、70歳以上一人暮らしの方へ案内状を渡す。
- 準備は、サロンの内容にあわせた楽しい雰囲気づくりの装飾、名札の用意。また前日夜8時からスタッフで会場づくりを行っている。



②防災訪問

- 自主防災委員会委員で、70歳以上の方を訪問する。
- 防災に関する聞き取りアンケートを実施。世間話の要領でお聞きする。また、防災啓発を十分に行うこととする。
- また、災害・事故時の連絡先を災害連絡カードに転記し、緊急用の笛をつけて本人に戻す。



平成24年度以降の取組み

- 3ヶ月に1回サロンを開催。
回数を増やしてほしいとの要望も聞いている。
- 防災訪問の継続

取組みを継続するための課題等

- 心配なのは財源の確保。
- 少子高齢化が顕著。高齢者が圧倒的に多いので、どうしても高齢者対策に力を注ぐことになる。
受身になりがちな高齢者が地域を支えるような活動を一考する必要があると思う。

「歌っておしゃべりをする交流の場」の立ち上げ

横浜市保土ヶ谷区・コンフォール明神台自治会

地域の概要

地域名 明神台団地（横浜市保土ヶ谷区明神台）

交通 : 相鉄線星川駅から徒歩10分 横浜駅からバス約30分

住宅の状況 : 明神台団地は公団団地16棟、市営団地2棟、戸建21棟 1374戸

人口 : 2,630名 65歳以上552名(21.0%) 75歳以上332名(12.8%)

地域の概況 : 団地は昭和34年4月に出来た。海拔60mの丘、団地に通じる3本の道はいずれも勾配がきつい坂。明神台団地は公団団地、市営団地、戸建、3自治会からなっている。バスも通り鉄道駅も近くにあるが、高齢者には買い物はコンビニのみ。野菜・冷凍物があるスーパー開店の要望あり。隣に県立保土ヶ谷公園があり、自然環境は良好。公団住宅は入退居が激しく安定性ない。自治会入会率43%。市営2棟住宅自治会入会率99%。

課題

- 地域の高齢化。
- 多くの居住者が閉じこもりで肉体的精神的衰えを避ける事が難しい。

取組みのきっかけ

- 地域における迅速な見守り体制として交流の場作りをすることとした。

取組みの内容

取組みの概要

- 高齢者が集まり、おしゃべりや歌をうたう交流の場を立ち上げる。
- ピアノ伴奏やカラオケを使つての合唱。
- 地域ケアプラザの保健師による手指体操、“きよしのズンドコ節”にあわせた体操。
- 参加者にアンケート実施

開催回数等（実施期間 H23. 12. 14～H24. 3. 26）

- 4回開催
 - 1月28日（土）13時～ 40名参加
 - 2月12日（日）13時～ 34名参加
 - 2月25日（土）13時～ 27名参加
 - 3月10日（土）13時～ 28名参加

成果

- 市営2自治会の協力が得られた。人数が増えて賑やかになったことだけではなく、繋がりが出来てきた。
- 参加者の話が弾み交流の場となった。
- 参加者の笑顔と感謝のことばに満足感があつた。
- 技術を持っている住民の方に電気技術、ポスター作成等で協力いただけた。

取組みを実施した中で注意した点・工夫した点

①地域全域での取組み

- 参加対象を明神台全域とし、公団自治会の他、自治会市営住宅2自治会長にも運営委員会として協力をお願いした。
- 反省会を兼ねた実行委員会を開いて連絡を密にした。
- 準備スタッフは自治会役員全員に協力要請をした。



②はじめはシンプルに

- あれもこれもと手を広げるよりは、今回は「みんなで歌っておしゃべりしよう」とし、実施の過程で出てきたことを今後取り入れていくこととした。



平成24年度以降の取組み

- 「みんなで歌おう明神台」を月2回（第2、第4土曜）開催。歌だけではなく、地域包括支援センターから保健師を招き、体操や健康についての勉強会や、大道芸・手品などの鑑賞会などを取り入れ、幅広く行う。
- 明神台にある3自治会が交代で当番をすることにした。

取組みを継続するための課題等

- 参加者からは「よかった、もっと続けて。」と言葉があるが、主催者側からすれば、「歌う会」にしては少し静か過ぎるのではないかと気になる。
- 男性参加者が少ない。
- 高齢者は552名いるが、参加者はその10%にも満たない。
- 活動の手助けはするが先頭に立つのは厭だという人が多い。若い人に期待したいが仕事で忙しい。

住民間の親睦を目的に交流サロンを立ち上げ

横浜市旭区・西ひかりが丘団地

地域の概要

地域名 西ひかりが丘団地（横浜市旭区上白根町）

交通 : 相鉄線鶴ヶ峰駅からバス約15分

住宅の状況 : 集合住宅5階建 20棟 961戸

人口 : 1,868名 65歳以上494名 (26.4%) 75歳以上147名 (7.8%)

地域の概況 : 横浜市旭区北部に位置し、ズーラシア動物園と県立四季の森公園に囲まれた自然豊かな所。住民は高齢化がすすみ、単身の高齢者も多い。

課題

- 少子高齢化が進んでいる。
- 年々、住民同士の交流が少なくなっている。

取組みのきっかけ

- 3. 11の震災報道を契機に少子高齢化が進む当地で発生したらどうなるのか危機感を感じた。特に高齢者とは連絡を取り合い支え合う体制づくりをせねばならないと思った。

取組みの内容

取組みの概要

- 交流サロンの開設をした。
- 開催ごとに、
防災訓練に参加できない人向けの説明
旅紀行を通じてのふれあい会
体操、合唱、ふれあい会
と内容をかえて実施した。

開催回数等（実施期間 H23. 12. 14～H24. 3. 26）

- 3回開催
1月28日（土）10：00～
2月19日（日）10：00～
3月6日（火）10：00～

成果

- 想定より参加者が少なかったが、回を重ねるごとに新たな参加者があった。

取組みを実施した中で注意した点・工夫した点

①立ち上げにあたっての準備

- 関係者と事業の主旨目的の理解を深めるため、様々な会議、検討、連絡会を持った。
- 先行している団地に見学
近隣の自治会でも、住民の関係の希薄等の同様の課題があることがわかった。
- 地域ケアプラザ見学
ケアプラザで活動している方の協力を得て実施することができた。（ボラ体操のトレーナー、大正琴のボランティア、進行役）



②振返りと話し合い

- 開催ごとに振返りを行い、反省点を踏まえて次回の企画を行った。



平成24年度以降の取組み

- 開催はおおむね第一火曜日 10時から2時間程度とし、年10回を予定。
また、他のサロンとも協力して合同開催も計画。
- 参加費は取らず、内容を毎回検討して次につなげるようにする。

取組みを継続するための課題等

- 利用者が少ないので、内容に工夫が必要。地域のニーズがつかみきれていない。

これからのニーズに備えた買い物サポート活動の立ち上げ

横浜市磯子区・洋光台北団地一街区自治会

地域の概要

地域名 洋光台北団地一街区（横浜市磯子区洋光台）

交通 : JR根岸線洋光台駅から徒歩8分

住宅の状況 : 5階建/10階建 34棟 約1000戸

人口 : 約2000名

地域の概況 : 昭和41年から施工された区画整理事業により207.5haの近代的ニュータウンとしてUR（旧公団）を中心に整備され、昭和45年から入居が開始。現在は洋光台地区全体で約12000世帯26000人が戸建てと集合住宅ほぼ半々に暮らしている。

課題

○一街区に自治会が創設されてから40年が経過。高齢化の進展が加速される事が予想される。

取組みのきっかけ

○平成22年度4月開催の自治会第40回総会で、「魅力ある自治会づくり検討委員会」から「生活サポートクラブ」立ち上げが提起された。
○平成22年6月に団地居住者へアンケートを行ったところ高齢者世帯の粗大ゴミ出し・安心見守り声かけ活動・買い物サポート等のリクエストあり、平成23年5月から声掛け活動が毎週始まったところである。

取組みの内容

取組みの概要

○「生活サポートクラブ 買い物サポート活動」を開始。申込みに応じて買い物の同行か代行をする。電動自転車2台を活用。
○事業の周知のため、自治会ニュース掲載、各棟全部の階段入口掲示板にポスター掲示、サロンや老人会での説明を行う。自転車のお披露目を兼ねたPR活動を実施。

開催回数等（実施期間 H23. 12. 14~H24. 3. 26）

○問い合わせ1件。
○利用実績は0件。

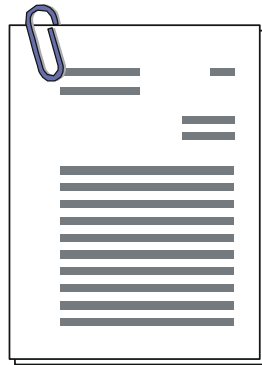
成果

○世帯構成から見て近い将来必ずや発生すると思われるので、今回体制が準備できたこと、居住者に安心を与えることが出来たことは成果である。

取組みを実施した中で注意した点・工夫した点

①アンケート調査

- 受付開始してから要請がないことから、老人会会員にアンケートをした。
- その結果、買い物サポートを知らなかった人はわずかであり、利用しない理由は「まだ、利用する状態ではない。」だった。
- 「その時はよろしくお願いします。」「ありがたい」といった声もいただく。



②電動自転車の有効活用

- 買い物サポートで使われておらず空いているときに目的を問わずに電動自転車をシェア（共用）利用する登録メンバーを募集。生活の利便性を高める狙い。



平成24年度以降の取組み

- 自治会・生活サポートクラブとして、様々な機会を通してアピールし、継続のためのスタッフ作り、管理手段を確立していく。

取組みを継続するための課題等

- 老人会の会員はアンケート結果等で状況がわかったが、会員でない方等の状況の把握ができていない。
- 現状では自治会役員を中心に少ないスタッフで運営されているが、いざ買い物要請が増えてくるまでに幅広いスタッフ参加が求められる。

一人暮らし・子育てママ・障がい児 孤立防止の取組み

横浜市港北区・コンフォール南日吉自治会

地域の概要

地域名 コンフォール南日吉団地（横浜市港北区日吉本町）

交通 : 横浜市営地下鉄グリーンライン日吉本町駅 徒歩10分

住宅の状況 : 10階建 12棟

人口 : 1,822名

地域の概況 : 交通の便に恵まれたUR公団住宅で環境もよく、中学校、小学校、横浜日吉本町ケアプラザ、OKストア等が近隣している。

課題

○高齢者の孤立

取組みのきっかけ

- 高齢者の孤立が気になっていた。
- 子育て中の母親の声。
- 障がいがある子どもの親からの相談。

取組みの内容

取組みの概要

○高齢者の孤立防止、交流のため、サロンの充実。

○講演会（成年後見制度）の実施

○子育て支援の充実

2歳児教室を新たに開催。

○「障がい児者のよりどころ」を立ち上げ、障がいがある中学生、高校生とその親が集う。

開催回数等（実施期間 H23. 12. 14~H24. 3. 26）

○高齢者サロン（第2火曜）

1月10日 男性6名 女性14名 計20名

2月14日 男性8名 女性14名 計22名

3月13日 男性8名 女性19名 計27名

○講演

2月15日 男性25名 女性37名 計62名

○2歳児教室（第4月曜）

1月23日・2月27日・3月26日

（参加者 親5名・子5名）

○障がい児者のよりどころ（第3土曜）

1月21日（参加者 親5名・子5名）

2月25日（参加者 親5名・子5名）

3月24日（参加者 親5名・子5名・見学者2名）

成果

○サロンの参加者同士が、お互い親しくお付き合いできるようになった。今まで知らなかった人とも道で会っても会話が出来るようになったという話あり。

○初めて参加された方が回を重ねるごとに明るくなり、主催者にとっても励みとなった。

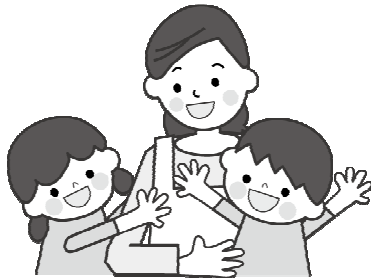
○成年後見制度の講演会の参加後、ケアマネ立会いで相談につながった人もあり。

○住民から「人と人との絆が深まり、この団地に住んでいたら安心だと思う。」という感想を頂き、地域支え合い活動のひとつの目標ができた。

取組みを実施した中で注意した点・工夫した点

①子育て支援（2歳児教室）

- 今までの3歳児の教室の他、2歳児を対象とした教室を新たに実施。
- 保育士が子どもの遊びに携わる。自治会役員・ボランティアは子育て相談。
- 孤立して子育てをされていて何でもないことに悩んでいることに気づいたとの感想を多く寄せられた。
- 子どもを通して親同士も友達ができた。
- 親が少しでも、自分の時間を持てるようになった。



②障がい児のよりどころ

- 自閉症やダウン症等の障害のある子供、その親と支援者がどのようにかかわっていけばよいのかと何回も話し合った。
- 「障がい児のよりどころ」の開所は日吉地域全体の関心となり、港北社会福祉協議会・港北福祉保健センター・横浜市下田ケアプラザ・横浜日吉本町ケアプラザの協力が得られる。
- 友達と外で遊ぶ事ができずに、家でゲームやテレビを観て過ごす事が多い子ども達にとって、「障がい児者のよりどころ」は人と楽しく遊ぶことができる場であり、安心して過ごせる場となっている。

平成24年度以降の取組み

- 高齢者サロン
広報活動を一層行い、一人でも多くの人の参加及び協力を得られるよう努める。
- 子育て支援
集いの回数を増やして子供の虐待防止にも協力。
- 障がい児者のよりどころ
24年度からは新たに2名の障がい児が参加。

取組みを継続するための課題等

- 高齢者サロン
男性高齢者の積極的な参加。マージャンの会を開催予定。
消極的な方が集会に入りやすいような改善策。

高齢者の生きがいと精神障害者の地域参加のきっかけ

横浜市都筑区・特定非営利活動法人五つのパン

地域の概要

団体名 特定非営利活動法人 五つのパン

活動内容：心の苦しみや病を持つ人、身体にハンディのある人、高齢者等で日常生活に支障のある方々に対して、1) 在宅支援事業、2) 生きがいづくり・仲間づくりを目的としたふれあいの場の提供事業、3) 共に生き・共に働き・共に喜ぶことを目的とした生活と就労の場の提供事業を行う。

地域名 横浜市都筑区及びその周辺地域

人口：199,096名 65歳以上24,816名(12.5%) 75歳以上10,112名(5.1%)

地域の概況：仲町台は港北ニュータウンの一部であり、マンションを含めて新興の住宅地。都筑区は若い世代が多く横浜市内で平均年齢が一番若い区である。しかし、都筑区は引き寄せ高齢者が潜在的に多くいるとされ、65歳以上人口における転入高齢者(65歳以上)の割合は、3.41%(横浜市平均1.9%)で18区中1位である。一方、精神障害者も増加傾向にありH19からH21の3年間で、区内の精神保健福祉手帳所持者も2割増加。

課題

- 今後も精神障がい者及び高齢者の増加が見込まれより一層の支援が必要
- 社会福祉制度上は障がい者と高齢者は縦割りになっており、お互いが交流する中での支援は難しい。

取組みのきっかけ

- 地域内で交流する機会もほとんどないことから、高齢者がいきいきと生きる機会の創出と精神障がい者の地域参加を目指すためのきっかけづくりをしたい

取組みの内容

取組みの概要

- 高齢者や福祉保健活動に興味のある方を対象として、精神障害に対する理解を深める講座及び傾聴ボランティア養成講座を開催する。

開催回数等 (実施期間 H23. 12. 14~H24. 3. 26)

- 傾聴基礎講座5回 2コース
- 精神保健福祉講座1回 2コース
- 各回定員12名としたが、延べ54人受講(高齢者11人、その他43人)

成果

- 54人受講し、25名がボランティア等への参加など継続的な支援に協力する申し出があった。
- 新たに交流できた団体、グループがあった。

取組みを実施した中で注意した点・工夫した点

①目的を伝える

- 高齢者の社会参加、精神障がい者に対する偏見をなくす効果や高齢者が持つものづくり技術などを障がい者へ継承するためのボランティア育成を目的としている。
- 講座では、この目的を明示し、必要なスキルの習得を目指していただいた。



②住民を対象とした講座

- 法人としては、地域住民を対象とした講座は初めて実施した。
- 口コミ、区社会福祉協議会等への案内、ホームページ（ブログ）等の掲載等で広報を行う。
- 傾聴や精神保健福祉を学びたいという人や、きっかけを求めている方が多いことがわかった。

平成24年度以降の取組み

- ものづくりなどのスキルを障害者に継承するプログラムを実施予定。
- 本事業の講習に参加された方々が、参加したり企画スタッフとして関わることを期待している。

取組みを継続するための課題等

健康づくりをキーワードとした交流の取り組み

横浜市栄区・公田町団地自治会

地域の概要

地域名 公田町団地（横浜市栄区公田町）

交通 : JR線大船駅・本郷台駅からバス

住宅の状況 : 集合住宅5階建 33棟 1,160戸

人口 : 2,300名 65歳以上644名(59%) 75歳以上320名(29%)

地域の概況 : 昭和39年入居開始、47年経過して現在入居者の高齢化が進んでいる。丘陵地にあり敷地内は急坂や階段があり、高齢者が住まうにはたいへんである。団地内から大船・本郷台行きのバスがあり、交通は便利。

課題

- 入居者の高齢化が進んでいる。
- 地形上では、丘陵地であり、敷地内に急坂や階段があり、外部への交流の場への移動が困難となる人が増えた。

取り組みのきっかけ

- 高齢者・災害時要援護者・幼児等の見守り活動が自治会の最重要課題となっている。
- 敷地内の集会所での支援活動が必要となっている。

取り組みの内容

取り組みの概要

- 体重・体脂肪・血圧測定を行いパソコンでデータ管理。参加者は自己記録で健康管理を行う。
- 健康体操は講師を招きストレッチ等の運動を実施。
- 講演会は医師を迎えインフルエンザ予防について講話を行う。
- より多くの高齢者や子どもが集まる交流の場として映画会を立ち上げる。

開催回数等（実施期間 H23. 12. 14～H24. 3. 26）

- 健康管理・体操 月2回（延べ109名参加）
1月17日（火）1月29日（日）
2月7日（火）、21日（火）
3月6日（火）、20日（火）
- 講演会（38名参加）
2月14日（火）13:00～14:00
- 映画会（39名参加）
3月18日（日）14:00～15:30

成果

- 参加者が健康状態の把握ができた。また、健康の意識が高まった。
- 高齢者だけでなく、子ども等の参加があった。

取組みを実施した中で注意した点・工夫した点

① 関心の高い「健康」をテーマとする

○健康管理に加え、月に2回団地内集会所に集うことによる、足腰の運動や交流の効果も図られた。



② 多くの人が参加できる工夫

○健康に関する講演会は、医師を迎えインフルエンザ予防について講話。時季にあった内容で、住民の他、保育園の先生方の参加もあった。

○映写会は、年代を問わず参加できるアニメ作品にした。高齢者の他子どもも参加。

○ポスターをカラーにし、目立つようにした。



平成24年度以降の取組み

○健康管理を今後とも継続。

○年に1～2回、医療講演を続けていきたい。

○映画会は、5週ある月に最後の週の火曜日に高齢者が楽しめる作品を選んで開催する。子供向けは夏休みに行く。

○昔から行われている日本の行事（七夕、お月見、正月のカルタ取り、ふく笑い、豆まき等）を高齢者と子どもとで行っていく。

取組みを継続するための課題等

安否確認訓練や健康維持・認知症対策の取組み

横浜市栄区・飯島団地自治会

地域の概要

地域名 飯島団地（横浜市栄区飯島町）

交通 : JR東海道線戸塚駅からバス

住宅の状況 : 集合住宅5・7階建 40棟 1,150戸

人口 : 約2,500名

地域の概況 : 昭和43年入居開始。JR戸塚駅、大船駅、本郷台駅と3駅からバスが出ているが、大船駅へは急な坂道があり、バス停まで距離がある。本郷台行きは区役所に行くときに利用するが本数が少ない。住民の高齢化（70歳以上が25%を超える）。環境は緑が多くいいところ。

課題

- 団地住民の高齢化に伴い、一人暮らし高齢世帯が増え孤独死が続いた。自治会として高齢者問題を重視し、福祉委員会を立ち上げ、皆が集える場所づくり、お互いに助け合えるボランティア組織づくりをしてきている。
- また、子ども会の組織率低下などの問題点も多い。

取組みのきっかけ

- 今まで取り組んできた各団体を活性化させるとともに、新しい活動に住民を呼びかける。特に今まで取組みが遅れていた災害時の要援護者支援や、住民の介護予防・健康のための事業を行うこととする

取組みの内容

取組みの概要

- 高齢者見守り体制構築のため、地域防災拠点訓練の中で災害時要援護者安否確認を行う。
- 健康維持、認知症対策として、勉強会、健康体操、健康マージャン等を実施する。

開催回数等（実施期間 H23. 12. 14~H24. 3. 26）

- 地域防災訓練 2月5日（日） 248名参加
そのうち 安否確認 8:30~9:00
- 認知症勉強会 56名参加
2月14日（火）10:00~12:00
- 健康体操 3月21日（水） 30名参加
- 健康麻雀 3月8日（木） 31名参加

成果

- 高齢者が生き生きした笑顔を見せてくれるようになった。
- プロジェクターを活用することで、活動の幅が広がる。
勉強会がわかりやすい DVD活用等で体操がわかりやすくなった。

取組みを実施した中で注意した点・工夫した点

①安否確認訓練

- 飯島小学校地域防災拠点運営委員会で計画実施した防災訓練の中に、自治会で安否確認を取り入れる。
- 自治会自主防災組織の各班班長を主に安否確認する。今回は初めての取組みなので、1・2階の独り暮らし、高齢者世帯を中心に行うこととする。
- 各班長に徹底するように班長用のお知らせを作成。
- 班長の中には、要援護者とは何か、一時避難所がどこか、安否確認方法はどのようにするか等、知らないことが多い人もいたが、この機会に確認することができた。
- 安否確認を通して、高齢者や一人暮らしの人が、班長と知り合いになれた。



②健康麻雀

- 「飯島団地いきいきネットワーク連絡会」の打合せで、認知症対策を話し合う。手・脳の働きを活発にさせる麻雀を計画した。
- 麻雀クラブに講師と協力を依頼。
- 当日は、話を聞きに來ただけ、関心はあるが実際にやれると思っていない人が多いようだった。
- そのため「記念写真を撮るから座って。」と呼びかけ、撮影後、各麻雀卓に座った人をそのまま、麻雀クラブの人に説明に入ってもらった。やるつもりがない人もいつの間にか始めていた。
- 本当に牌を持ったことのない人、脳梗塞を患ってから好きな麻雀ができなかったという人も参加した。
- 麻雀クラブにはとてもついていけないが、こんな麻雀だったらやってみたいという声が多かった。



平成24年度以降の取組み

- 自主防災組織を見直し、災害時要援護者支援と日頃の見守りを強化したい。
機材取扱、救護、炊き出し等の訓練は毎回行っているが、安否確認・支援など人と人が関わることに目を向けた活動にも力を入れたい。
- 認知症対策は、介護する側の問題を取り上げていきたい。
健康麻雀は、卓を集会室におくなど、気軽にできるようにしていきたい。
- 健康体操の継続、普及
プロジェクターを活用して楽しい体操を計画する。
椅子を使ってやれる短い体操をダウンロードしたり、DVD等を活用して、ミニデイやサロンの時間の一部で楽しく体操を取り入れることも検討。

取組みを継続するための課題等

- どんな企画をしても参加しない人がいる。災害時など心配である。そのような人はどんなことだったら出てきてくれるか。
- 団地は高齢化が進んでいるが周辺は若い人が多い。もっと若い人・こども向けの事業、団地だけにとらわれず、地域として取組みが必要ではないか。

高齢者の交流の場を増やす取組み

横浜市瀬谷区・アーバンドエル瀬谷自治会

地域の概要

地域名 アーバンドエル瀬谷（横浜市瀬谷区橋戸）

交通 : 相鉄線瀬谷駅から徒歩15分

住宅の状況 : 集合住宅4～10階建 15棟 452戸

人口 : 把握できず 世帯 : 約430世帯

地域の概況 : 旧住宅（UR賃貸住宅）を13年前に建替え。駅から15分程の距離にあり、途中で坂などもなく立地条件としては良好。厚木街道のすぐわきにあるが奥に入ると静かである。65歳以上の高齢の方が約100人住んでいるが半数は建替え前から入居している。共働き世帯が多く、入退居が1年を通じて多い。

課題

- 居住者の高齢化が進み、ただでさえ閉じこもりがちとなる高齢者が増えつつある現状にどのような対処するかが喫緊の課題となってきた。
- また、無縁社会・孤独死等がマスコミで取り上げられているが、個人情報保護の壁に立ちふさがれて思うように活動を展開できないのも事実である。

取組みのきっかけ

- 自治会では「あすなる会」と称する高齢者の会を立ち上げているが、更に会員数を増やし着実に展開できるように取り組む。

取組みの内容

取組みの概要

高齢者の閉じこもりを防止し活動の場を広げるために、新規に映画鑑賞会、カラオケ同好会、健康相談会を立ち上げる他、サロンや既存の同好会の充実を図る。

開催回数等（実施期間 H23. 12. 14～H24. 3. 26）

- 映画鑑賞会（新） 月1回 各約20名参加
- カラオケ同好会（新） 月4回 各10名参加。
- サロン : 各約30名参加
- 麻雀クラブ : 月2回を3回に。新メンバー増。
- 手芸サークル : 月2回を3回に。参加者増。
- 囲碁クラブ : 月4回。
- 健康相談会（新） 33名参加

成果

- 担い手の意識があがった。事業の打合せを重ねることで新たな試みへ踏み出すことにつながった。仲間うちだけではなく「地域の支え合い活動への寄与」という意識も芽生えている。いざというときに「支え合う自治会」であることが大切だと再認識した。参加者増も励みとなった。
- 近隣の町内会との具体的な交流ができたことも意義があった。
- 事業を通して高齢者の家庭状況等も把握することができた。

取組みを実施した中で注意した点・工夫した点

①参加者を増やすための工夫

- 近隣の2つの町内会に事業のお知らせの配布・回覧をお願いした。
- 広報は各棟のエントランス掲示板に掲示のほか、ご高齢の方には各戸配布（約80戸）して周知した。
- サロンには、マッサージチェア、血圧計等の健康機器や、パン焼き器やコーヒーマーカーを設置した。
- 麻雀クラブ、手芸同好会は、開催日を増やした。
- 映画鑑賞会、カラオケ同好会を立ち上げた。
- 新たに、健康相談会を開催した。



②参加者がつながることを大切にする

- 手芸クラブでは、椅子用クッションを手作りしていただき、サロン・麻雀・映画鑑賞会・健康相談会で活用した。
- サークル活動で昼をはさむ場合、参加される皆さんが弁当をまとめて購入し、集会所で一緒に食事されるケースが何度か見られた。負担が大きくなるよう見守っている。



平成24年度以降の取組み

- サークル活動、サロン等を継続実施。
- 閉じこもり問題改善の糸口として、疾患を持つ高齢者と家族のため、一般の方の健康維持のため、健康相談を今後とも継続できるよう検討中。

取組みを継続するための課題等

- 開催の準備が大変。協力者の負担増大しないための配慮、協力者をいかに増やすかが課題。

世代を超えた支え合いと絆 高齢者支援・緊急時の備え

川崎市川崎区・池上新町町内会

地域の概要

地域名 池上新町町内会地内（川崎市川崎区池上新町）

交通 : JR線川崎駅からバス

住宅の状況 :

人口 : 4,443名 65歳以上994名 (22.3%) 75歳以上450名 (10.1%)

地域の概況 : 地形の高低差がなく平地である。川崎駅へバスの便は多い。川崎臨港警察署・川崎臨港消防署がある。個人商店は少なく、マンション・住宅が多い。

課題

○高齢者や障がい者が増えることにより、福祉・健康・介護・見守り・支え合いが必要になる。

取組みのきっかけ

○町内会役員・老人会・民生委員・社会福祉協議会委員・地域包括支援センターとの話し合いの中で、地域での横のつながりが大事である事がわかり、取組むことになる。

取組みの内容

取組みの概要

○車椅子体験

あわせて、マジックショーを行い、高齢者と子ども、障害者が交流した。

○つながりの輪食事会

主に一人暮らしの高齢者を対象とした食事会を実施した。

○AED設置・使用講習会

町内会館に設置。まずは、役員が使用講習会を受けた。

開催回数等（実施期間 H23. 12. 14～H24. 3. 26）

○車椅子体験 参加者97名

2月12日（日） 9：30～12：00

○つながりの輪食事会 参加者50名

3月12日（月） 11：15～13：15

○AED使用講習会 参加者23名

成果

○老人会、子ども会とそれぞれが活動しているが交流が少なかったところ、このたびは、子どもとその若い親、老人会との世代間の交流ができた。

○食事会の参加者が、普段交流の少ない、町内会長や役員と意見交換をしたところ、いろいろな課題がわかった。

取組みを実施した中で注意した点・工夫した点

①車椅子体験

- 区役所地域保健福祉課に事業の趣旨説明と講師依頼した。
- 事前に公園内や周辺の段差等を講師の確認をした。
- 社会福祉協議会から車椅子借用。
- 子ども会・老人会・障害者の方々に事業の主旨説明と同時に案内状届ける。
- 当日は、車椅子体験。その後、マジックショーを行い、高齢者と子ども、障害者が交流した。



②つながりの輪食事会

- 食事は社協委員の手作り。地域包括支援センターの血圧測定とアドバイス、川崎市消費者センター「くらしのセミナー」テーマ（食と健康・食べることの大切さを考える）として講師を依頼。
- 食後は、情報提供、ゲーム、意見交換。
- 会場の関係で50人が限度なので、参加者を限定するのに苦慮した。



平成24年度以降の取組み

- 車椅子体験：今回は子どもとお年寄り中心に行ったが、今後は地域住民全体に呼びかけて実施する。
- AED講習：防災訓練や避難訓練を地域住民で開催し、その際にAED設置の周知と使い方講習会を行う。
- 食事会：一人でも多くの人に参加できるような工夫をして継続。

取組みを継続するための課題等

- 車椅子体験を見ていた他の住民から「私たちも参加したいのに知らなかった。」と言われた。広報の仕方に反省。
- AEDの講習会をやったが、いざというときに救命できるか不安であるという声が多かった。
- AEDの設置場所。町内会館の中に置くと、普段町内会館は鍵がかかっているのでいざというときに使用できないため、検討中である。

住民による住民相互の見守り体制づくり

川崎市川崎区・鋼管通2丁目町内会

地域の概要

地域名 鋼管通2丁目町内会地内（川崎市川崎区鋼管通2丁目）

交通 : JR線川崎駅からバス

住宅の状況 :

人口 : 把握していない 世帯 : 約320世帯（町内会員は240世帯）

地域の概況 : 戦後の労働者の住宅地、商店街として形成されてきた。昭和50年を境に人口減少と高齢化が始まり、子ども世帯が地域外に住まいし、親世代が地域に残って、居住層の高齢化が進んでいる地域といえる。

課題

○一人暮らし高齢者、高齢者世帯が多くなって、日常生活に支援を必要とする世帯が見られている。働いている現役世代は、日常的に地域とのつながりは遠くなりがちであるが、当地域は比較的つながりが残っているともいえる。

取組みのきっかけ

○当町内会では、平成20年より一人暮らし高齢者、高齢者のみの世帯を対象に、婦人部・福祉部により会食会活動を行っている。平成22年「助け合いネット鋼2」を立ち上げ、活動を行ってきた。しかし現在のレベルは、町内会組織の活動とはいえ、個人レベルの善意、負担によるものが多い。

○24年に向け日常的な「見守り活動」を立ち上げ、活動全体がシステムとして機能できるようにする。

取組みの内容

取組みの概要

○住民による住民相互の見守り組織づくり

1月 : 第1回説明会

2月 : 参加希望及びニーズ状況アンケート配布
訪問回収

3月 : ニーズ分析、町内会役員会で進め方詳細
検討。第2回説明会で見守り方法、見守り
コア、対応の手順、担当役員を確認

開催回数等（実施期間 H23. 12. 14~H24. 3. 26）

○「見守られる側」の年齢を70歳以上とした。

成果

○「見守り」を進める組織ができた。

○行事的な活動が占める割合が多い町内会活動の中に、具体的な町民の相互の支え合い、関係作りを進める形ができた。町内会の「福祉力」を高める形ができた。

取組みを実施した中で注意した点・工夫した点

①見守り体制

○一人暮らし高齢者、高齢者のみ世帯、障害者世帯など「見守り」・支援を必要と思われる世帯を対象に、町内会員による日常的な見守り・相談支援のコア（「見守り」を必要とする世帯に対し、「見守り」をする近隣住民との組み合わせ）を組織した。

○災害等の緊急時に、お互いを安否確認して、状況を町内会として把握できる体制を組織した。

○活動2年目になっている「助け合いネット鋼2」と「見守り支え合い活動」に専用電話設置し、将来にわたり継続できる環境を整えた。



②誰も排除しない

○「見守りに参加するか」のニーズアンケート、説明会の案内は、町内会会員以外にも配布した。

○アンケート回収は、役員が直接訪問をして主旨説明や、状況のヒアリングをし、利用者のニーズ状況把握を補った。

○町内会会員でなくても、見守りの「輪」に参加していくことの合意を町内会役員会で確認した。

○町内会に加入していない世帯、「見守り」を「必要なし」と回答した世帯に対しても、何らかの見守りをしていこうという合意を参加者の中で得られた。



平成24年度以降の取組み

○見守りで発見された事故や危機に対する適切な対応の方法を、その都度報告し合い、点検していくこと。

○提出された支援を必要とする状況の変化を毎年確認していくこと。アンケート回答の内容を訪問して確認する。また情報が適切に管理されていることを伝え続けること。

○すでに行われている活動（「助け合いネット鋼2」（日常的な暮らしのお手伝い）、「ふれあい会食会」活動）と見守り活動をどのように効果的に関連つけていくかを継続的に検討していくこと。

取組みを継続するための課題等

○ 行政機関との連携や実施への支援

保健福祉センター、地域包括支援センター、社会福祉協議会等が、市民のこうした活動に対して「作りましょう」「必要です」というだけにとどまっている。今後は見守り活動を進めながら、何を支援してほしいかについての提起を、私たちの側から提起していく必要がある。

○見守りで発見された事故や危機に対する適切な対応の方法を、その都度報告し合い、点検していく場面でも保健福祉センター、地域包括支援センター、社会福祉協議会等が同席して、専門的な立場からサポートが望まれる。

目的を持って集まれる「文化クラブ」を立ち上げ

川崎市宮前区・鷲ヶ峰西住宅自治会

地域の概要

地域名 鷲ヶ峰西住宅（川崎市宮前区）

交通 : 小田急線生田駅からバス約10分

住宅の状況 : 集合住宅3階建5棟、5階建2棟

人口 : 550弱名 世帯 : 244世帯

地域の概況 : 坂が多い。近くに店がない。団地は27年前に建てられた。区役所、市民館までのバスが少なく、不便である。

課題

- 既に3人の独居世帯の方が亡くなっている。高齢者夫婦、日中一人家庭も増え、近所との付き合いも希薄。
- 平成22年度総会において、高齢者に配慮したやさしい自治会を作ってほしいとの声があった。

取組みのきっかけ

- 週1回集会所を開放して集える場所「おしゃべり広場」を作ったが、なかなか人が増えない。人との付き合いが苦手な方は来ていただけない。
- 自治会に新設した福祉部に「文化クラブ」を作って、目的を持つことで集まりやすい環境をつくることとした。

取組みの内容

取組みの概要

- 「文化クラブ」の立ち上げ。
- 落語会&マジックショー
- 音楽療法（リトミック）
- 認知症講座
- 民謡・日本舞踊等

開催回数等（実施期間 H23. 12. 14~H24. 3. 26）

- 落語会 1月15日（日）11~
- 音楽療法（リトミック） 延べ67名参加
2月6日・20日/3月5日・19日（月）13~14
- 認知症講座 29名参加
2月18日（土）10:30~12:00
- 民謡・日本舞踊 22名参加
1月23日/2月27日/3月26日（月）13~14:30

成果

- 参加者は楽しんでいた。
- 新しいメンバーが増えつつある。
- 機関や団体の情報やつながりを見出せた。
- この事業をやって見守り支援を具体的に考えられるようになった。24年度は見守り支援隊「ホット・ライン」をスタートすることになった。

取組みを実施した中で注意した点・工夫した点

①事前の話し合い

- 話し合いは“おしゃべり広場”の時間内に集まって行く。役員だけではなく、広場に集まってきた方も巻き込むため。
- 認知症講座は、重たい問題を受け入れやすくするため、劇を入れる。また、集まりやすくするために土曜日開催とすることとした。



②機関や団体の協力

- 地域包括支援センターは高齢者問題を考える上で大きな力となった。
- 宮前すみれの会（認知症家族会）は認知症講座にご協力いただく。
- 高齢社会福祉総合センターを通し、川崎介護福祉会の方に来ていただいて、車椅子体験を企画させていただいた。
- 消費者センターのセミナー
- 無償でセミナー開催に協力していただける社会資源があることがわかった。



平成24年度以降の取組み

- 事業は継続。人が集まる講座は継続しつつ、新企画も立てていく。
- 音楽療法の先生には事業に協力いただけることとなった。
- 民謡、日本舞踊の先生に趣旨をご理解いただき、継続。
- 夫婦で暮らす方の老齢介護の問題を精神的にフォローできるような講座の開催。

取組みを継続するための課題等

○PR方法に課題。

掲示や回覧はあまり気にして見てもらえていない様子。当日忘れたり、日を間違えた人もあった。口伝えをしてくれる人たちを増やす方がよいかもかもしれない。チラシの内容の検討も必要と思われる。

老人会主体で団地の交流サロンを立ち上げ

川崎市宮前区・南平友愛会

地域の概要

団体名 南平友愛会（老人会）

地域名 川崎市宮南平耐火住宅（川崎市宮前区南平台）

交通 : 田園都市線宮前平駅からバス7分

住宅の状況 : 集合住宅4・5階建 15棟

人口 : 620名 65歳以上311名(50%) 75歳以上144名(23%)

地域の概況 : 昭和36～39年にかけて順次四棟ずつ多摩丘陵を削って建てられたため、段々坂に建てられていて、坂が多い地形。東名高速道路沿いにある。新しい入居者の割合が60歳以上の単身者が多く、高齢化率が50%を超えている。

課題

○入居当初から住んでいる人が半数で、当時20代～30代方たちが今や70～80代。ここ10年の新しい入居者も50代60代で、団地の中は老人ばかりで、自治会の役員の成り手がなく自治会が弱体化している。

取組みのきっかけ

○自治会を強化推進していくために、自治会の中に推進委員会を立ち上げてさらに新しい組織作りを推進しているが、現在の高齢化対策をすることがないので、他の自治会や高齢者対策団体と、「南平ふれあいルーム」という団体を設立することとした。

取組みの内容

取組みの概要

- 高齢者の安否確認をするためのアンケート
- 高齢者の地域見守り活動に関する説明会
- 南平ふれあいルームプレオープン
説明会での住民の意見を参考に、団らん室で、南平ふれあいルームを開催。
宮前区役所の保健師による健康相談、地域包括支援センター職員による介護相談等も行う。
参加者に簡単なアンケート実施。

開催回数等（実施期間 H23. 12. 14～H24. 3. 26）

- 南平ふれあいルームプレオープン
3月23日（金）午後1時から4時。
参加者36人（男性4 女性32）
- ◎以降現在まで四回のフレアイルームを開催して常時30～40人の参加者がある。

成果

- 住民の意見を聞く事ができた。
- 自治会と連動することにより自治会が少しまとまってきた。

取組みを実施した中で注意した点・工夫した点

①住民のアンケートを実施

○見守り活動を行うにあたって、住民の現状や考え、ニーズを知るためにアンケート調査を実施。

○調査内容

- ・ 緊急時の連絡先の有無
- ・ 緊急時の連絡カードを自治会に提出するか
- ・ 自治会で生活を守るしくみがあれば利用したいかどうかの意向。
- ・ 普段の生活のなかでの主な困り事
- ・ 介護認定の状況

○70歳以上の高齢者215名対象に各戸配布。

○回収167（回収率79%）

有効回答数164（有効回答率77%）



②説明会の実施

○空き住戸を利用した常設のふれあいルームの設置について、住民に活動内容を理解してもらうため、説明会を実施。

○趣旨には概ね賛成であったが、不特定多数の人の出入りによる不安、空き住戸利用への疑問等があった。

○空き住戸でなく団らん室や集会所の利用であれば設置が可能なので、場所や時間等を検討することとなった。



平成24年度以降の取組み

○ふれあいルーム仮オープンで得た住民の要望や反省点を生かし、今後も団らん室や集会所の一部を活用したふれあいルームを開催し、周知を図っていく。

○交流スペースを作っていくことには賛同が得られたので、空き住戸の活用についても具体的に進めていけるように、運営委員会内で検討していく。

○老人会で実施していた一人暮らし見守り活動を南平自治会全体に広げる。見守りを希望する人から緊急時の連絡先の提示を受けて実施する。

○経費は各自治会の協力を仰ぐ。市の助成金の申請をする。

取組みを継続するための課題等

○老人会で実施していた活動を自治会全体にひろげるために、老人会のサロン活動を中止して取組んだり、ボランティアの労力が増す等、老人会の負担が大きくなった。

○サロンや一人暮らしの見守りを長く継続していくための人材不足が否めない。後継者をどんな形で育てていくかに苦慮している。

○孤独死防止のため、寂しい老人を迎えるために、いつでもふれあえる場所（常設のサロン）としたいが、その実現に向けて苦慮している。

○事務局の場所となる拠点が無い。

高齢者支援のために交流の場づくり等の取組みを充実

川崎市麻生区・百合ヶ丘みずき街自治会

地域の概要

地域名 百合ヶ丘みずき街団地（川崎市麻生区百合ヶ丘）

交通 : 小田急線百合丘駅、新百合丘駅からバス約5分、または徒歩15分。

住宅の状況 : 集合住宅5～10階建 9棟 349戸

人口 : 約600名 65歳以上約145名（24%） 75歳以上約45名（8%）

地域の概況 : 昭和30年代に出来た団地。平成18年に建替えてみずき街団地となる。小田急線百合ヶ丘駅、新百合丘駅に近く、スーパー、コンビニ、店舗多数あり、緑も多くなだらかな丘陵地帯で環境も大変よい。

団地建替えにより移り住んだ人は旧団地から来た人が多く、特に高齢世代が多い。若い人も多くなったが早期転居率が高い。

課題

○独り住まいや高齢世帯が増え、閉じこもりも増えてきた。

取組みのきっかけ

○2年前に、高齢者を支えようと「みずき会」（交流サロン）を立ち上げた。
○高齢者の孤立防止に、交流活動を充実させたい。

取組みの内容

取組みの概要

- 高齢者のコミュニケーションのための集まりを充実
- “お花の会”の立ち上げ
団地内の花壇を分担して管理運営に取り組んでもらう。経験者が指導。
- 災害対策の充実
8月の防災訓練とは別に、避難訓練・講習会を実施。テントを設置して、一時避難、安否確認の安否確認の訓練を行う。

開催回数等（実施期間 H23. 12. 14～H24. 3. 26）

- 交流の場
月1回（第一水曜日）10：00～12：30
35名参加
- “お花の会”
8名参加
- 避難訓練・講習会
3月21日（水） 20名参加。

成果

- 交流の場は、回を重ねるごとに参加者が増えてきて、引きこもりがちだった人が明るくなった。
- “花の会”は参加者のやりがいとなっている。花壇を見て関心を持つ人が出てきている。
- 避難訓練・講習会により、災害時の備えの機運が高まった。

取組みを実施した中で注意した点・工夫した点

①交流の場

○プログラム

- ・ 軽いストレッチ（インストラクターの指導）
- ・ 自己紹介（何でもよいから必ず一言でも皆さんの前で話す。）
- ・ 軽食（大体カレーライス。高齢者はあまり自宅で作らないので大好評）
- ・ お茶タイムと雑談、
- ・ その後希望者に紙細工、ペーパークラフト。



②避難訓練・講習会

○プログラム

- ・ テントを張り一時避難して安否確認
 - ・ 家族や友人の確認連絡訓練
 - ・ 炊き出し（仮定）
 - ・ 集会所にて講話。（震災時の状況、被災時の助け合い避難の実際、心構え、役立つもの等）
- 講習はプロジェクター使用での説明、パンフレット配布等を行った。

平成24年度以降の取組み

- 交流の場は、今後は自治会活動として予算計上して実施。散歩、生け花講習、健康相談等の行事も取り入れたい。周辺の高齢者支え合いサロンへ協力依頼、近くの町内会との交流も予定。
- “花の会”は花壇をもう1か所増やす。防護柵を設置する。
- 避難訓練・講習会は今後とも継続。H24年9月に実施予定。
- 消防署等の講師の方も、高齢者にわかりやすい講習をしてくれるとのこと。
- 近所の町内会やマンション管理組合とも話し合い、特に高齢者が多い街なので、いっしょに行動する話し合い中。

取組みを継続するための課題等

- 参加していない高齢者はまだまだたくさんいるはずだが、個人情報関係で知るべきがない。自治会未加入者の把握も現状では不可能。ポスターやパンフレットの全戸配布で把握に取り組む。
- 災害時の備えとして筆筒等の家具転倒防止を勉強したが、勝手に壁に穴あけ接着できないため、公団に対応を問い合わせ。相談の結果、UR団地の管理会社である日本総合住生活（J S）が当事者との相談の上、工事可能（ただし工事費用は実費払い）となった。

住民の交流の場として映画会を立ち上げ

相模原市中央区・上溝団地連合自治会

地域の概要

地域名 県営上溝テラスハウス団地（相模原市中央区光が丘）

交通 : JR横浜線相模原駅からバス

住宅の状況 : 集合住宅2階建 149棟 992戸

人口 : (世帯 : 884世帯)

地域の概況 : 昭和42～45年に団地が出来た。環境は良好。
高齢者は団地全体で約50%。他国籍者約17%

課題

○自治会に高齢者と密接な活動がない。

取組みのきっかけ

○集会所に住民と高齢者の交流の場を立ち上げたい。自治会役員、ひまわり会（老人会）会長で話し合い、映画の上映会をすることとした。

取組みの内容

取組みの概要

- 集会所で、映画会を開催。
 - 1回目は高齢者向けドラマ。
 - 2回目は子供向けアニメ。
- お茶・菓子を用意した。
- 広報は、1回目は、全世帯にチラシ配布。2回目は、回覧板で周知。
- 各区自治会長及び役員、ひまわり会（老人会）で運営した。

開催回数等（実施期間 H23. 12. 14～H24. 3. 26）

- 映画会（2回開催）
 - 2月15日（水）14時～
参加者約80名。
 - 3月18日（日）14時～
参加者24名。（子ども16名、大人8名）

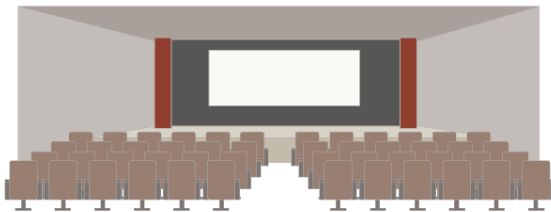
成果

- 初めての事業だったが、80名の人々の参加があった。（全世帯の約1割）
- 自治会、ひまわり会が協力して、場作りができた。

取組みを実施した中で注意した点・工夫した点

①やってみてわかったことを確認する

- テーブル席の三分の一、椅子席の三分の二で行ったが、全体をテーブル席にしたほうがよかった。
- 上映中は部屋が暗く、具合が悪くなった方がいても気づきづらい。
- 上映後、参加者で談話をしてもらおうと思っていたが、皆さんすぐ解散してしまい、うまくいかなかった。
- 障害者の方が参加できる体制も必要。
- アンケートを実施。
よかったとの回答が多数。
映画の他、食事会、談話等の希望あった。



②話し合いながら進める

- 1回目を踏まえて、2回目の内容を検討した。
- 2回目は子どもも来るような内容とすることとし、日曜日に開催した。



平成24年度以降の取組み

- 年に3, 4回程度の開催。

取組みを継続するための課題等

- 経費の確保。

カラオケ・麻雀・農業体験等の交流の場作り

相模原市中央区・横山六丁目自治会

地域の概要

地域名 横山六丁目（相模原市中央区横山）

交通 : JR相模線上溝駅から徒歩10分

住宅の状況 : 市営住宅50世帯1棟。アパート・マンション10棟。戸建。

人口 : 1,123名 65歳以上243名 (21.6%) 75歳以上94名 (8.4%)

地域の概況 : 住宅街。坂が多い。近隣に国体で使用した屋内型市営プールがある。

課題

- 高齢者世帯の核家族化。
- ふれあいの希薄化。

取組みのきっかけ

- 高齢者も若い人も、得意とする分野を多いに発揮し、皆が指導者になって健康で明るい自治会にしたかった。

取組みの内容

取組みの概要

- 高齢者交流のために、カラオケ講習会、健康マージャン講習会を行った。
- 世代間交流のため、農業体験講習会を行う。

開催回数等（実施期間 H24. 1. 13～H24. 3. 26）

- カラオケ（延べ26人参加）
 - ・進め方検討 1回（土）19時
 - ・練習日 3回（土）19時
- 麻雀講習（延べ28人参加）
 - ・進め方検討 1回（土）19時
 - ・練習日 1回（日）13時30分
- 農業体験（延べ25名参加）

成果

- 自治会集会所の活用が増加し、有効活用できた。
- 団体の活動計画ではなく、個人の参加希望の事業であり、参加者の価値観が近いもの同士が集まり新たな交流の輪が広がることがわかった。
- この事業を通して、囲碁・将棋の同好会を作ろうという動きが見え始めた。

取組みを実施した中で注意した点・工夫した点

①カラオケ講習会・麻雀講習会

- 回覧にて参加者募集周知
- 進め方検討会を行う。参加者間において各事業のルール作りを行う。
はじめは自治会がリードして話し合いをすすめ、段階を経て各事業の会長を中心に話し合いを行った。
- カラオケ講習会は多くの参加者が平等に参加できるようルールを制定した。
- 麻雀は、身体への負担を考慮した卓の種類分け（椅子卓、座卓）を行った。
- 麻雀は、習熟度の差があり、活動しにくい場面があった。新たなルール作りが急務。



②農業体験講習会

- 回覧にて参加者募集周知
- 進め方検討会を行う。責任者を決める。
- 農業体験
 - 1) 道具を入れる物置設置
 - 2) 石灰撒き、耕作
 - 3) 堆肥撒き、整地、区画割。
 - 4) 畑の耕作と種まき。
- 天候に左右される関係から、予備日を設けて活動日を確保した。



平成24年度以降の取組み

- カラオケ～発表会を企画。
- 健康マージャン～他地区との交流試合を企画。
- 野菜作り～収穫祭を企画。
- 活動の広がりを期待することから、上部組織である連合自治会にて活動内容を紹介し、事例研究の材料として取り上げてもらうよう働きかけたい。

取組みを継続するための課題等

- 農業体験の予算の確保

マンション林立地域自治会での交流の場づくり・災害対策

相模原市中央区・東第一自治会

地域の概要

地域名 相模原4丁目（相模原市中央区相模原）

交通 : JR横浜線相模原駅から徒歩

住宅の状況 : 集合住宅 マンション31棟・ワンルームマンション19棟
戸建24棟・店舗他6棟

人口 : 3,476名 65歳以上472名(13.6%) 75歳以上45名(1.3%)

地域の概況 : 平地。都内への利便性は今一つ。中層マンションが連立している。ワンルームマンションが多い。戸建て住宅が少ない。自治会加入者が少ない。移住者出入りが多い。若い人が多い。

課題

○当自治会は、マンションが連立するエリアで、自治会加入率が少なく、近隣とのコミュニケーションが希薄な状況であり、高齢者の状況が確認できずに孤立化が進んでいる。

取組みのきっかけ

○高齢者の地域交流や憩いの場で情報確認の場とし安否確認を行えないか。
○災害時にセキュリティーのしっかりしたマンションへ突入し高齢者を救助する準備が必要。

取組みの内容

取組みの概要

○高齢者の地域交流の場として、映画会を開催した。
○災害時の救助物品の整備とマンションにおける救助訓練の実施。

開催回数等（実施期間 H24. 1. 13～H24. 3. 26）

○映画会（3回開催）
2月23日（木）13：30 参加者18名
3月8日（木）13：30 参加者16名（雨天）
3月20日（火）13：30 参加者21名（祝日）

○救助訓練
3月11日（日）

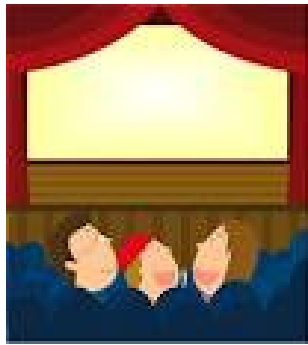
成果

○映画会は、参加者が表情豊かになった等よい効果があった。
○マンションにおける災害対策の課題が明らかになった。

取組みを実施した中で注意した点・工夫した点

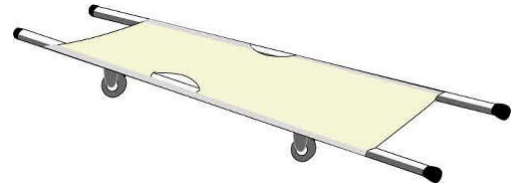
①映画会

- 広報はチラシ作成し回覧。（掲示板、ロコミ、民生委員に配布、いきいきサロンで説明会実施。）今後の予定も記載。
- 準備のため役員等でテスト試写会を行う。
- 自治会の集会室がないため、マンションの会議室を借用。
- 内容は、情緒あふれるものとした。参加者は泣き笑いしながら鑑賞し、上映後表情豊かになった。



②災害対策

- 災害時にマンションに閉じ込められたことを想定し、必要な道具の確保準備を行った。
- また、停電時のマンションからの高齢者救助の訓練を実施した。
- 車付担架の移動でも最低2名以上の介助が必要。階段では4名以上の介助を要することがわかった。
- マンションにおいて、災害時の避難方法及び経路の表示が十分ではないと思われた。



平成24年度以降の取組み

- 定期的な防災訓練と備品の充実。
現在は他自治会と協働防災訓練を行っているが、いずれできれば自治会単独で地域にあった訓練を行いたい。
- 各イベントにおいて映像を利用した防災や防犯・自治会の勉強会などを行う。
- 継続して映画鑑賞を行い、高齢者が参加できるようにする。
- 夏休みを利用し、子どもなどへの映画鑑賞を行う。
- 自治会全体の情報開示やコミュニケーションアップを図る。
- 小山地区自治会連合会・老人会・小山公民館等に協力していただく下打ち合わせ済。また、地域包括支援センターや民生委員に高齢者への情報回覧の協力をいただく。

取組みを継続するための課題等

- 自治会への協力が少なく、高齢者の情報が入りにくい。
- 個人情報の開示がネックとなって高齢者の把握が出来ない。

カラオケ等で自治会館を交流の場として活用する取組み

相模原市中央区・自治会法人本町自治会

地域の概要

地域名 本町自治会地内（相模原市中央区上溝）

交通 : JR相模線上溝駅から徒歩

住宅の状況 : 2~11階建 26棟 戸建て 330戸

人口 : 1106名 65歳以上345名 (31.2%) 75歳以上128名 (11.6%)

地域の概況 : 上溝本町は相模原でも歴史の古い地域で官公庁があったところである。昔は上溝宿場町で“市”が立ったという。現在も酉の市、だるま市があり、自治会で担っている。また、相模原の三大祭りの一つ“上溝夏祭り”は大変な賑わい。環境的には緑もあり坂道もなく恵まれている。高齢者は徐々に増えている。

課題

○高齢者が徐々に増えている。

取組みのきっかけ

○会員の健やかなる長寿を念じている。高齢者の認知症、うつ、閉じこもりの予防のため、家から外に呼び出すことを第一として、自治会館を交流の場に活用したいと考えた。

取組みの内容

取組みの概要

- 高齢者の孤立防止のため、自治会館を交流の場に活用し、カラオケ等の交流活動を行い、あわせて、安否確認を行う。
- カラオケお披露目会と称して参加者を募集した。
- 自治会役員、民生委員、社協地区担当で、事業の進め方、より多くの参加者を得る方法、役割分担等を長時間に渡り話し合う。

開催回数等（実施期間 H24. 1. 13~H24. 3. 26）

- 4回開催
- 2月22日（水）午前 23名参加
- 3月8日（木）13：30～ 16名参加
- 3月14日（水）13：30～ 18名参加
- 3月22日（木）13：30～ 21名参加

成果

- 民生委員と連携が出来、協力体制ができた。
- 若い世代で形成される神輿会では、防犯、防災の訓練にはぜひ高齢者に呼びかけをと提案があった。
- 普段なかなか会うことのできなかつた仲間との再会に話の花が咲いた。回を重ねるごとに打ち解けてとてもいい雰囲気ですすめることができた。

取組みを実施した中で注意した点・工夫した点

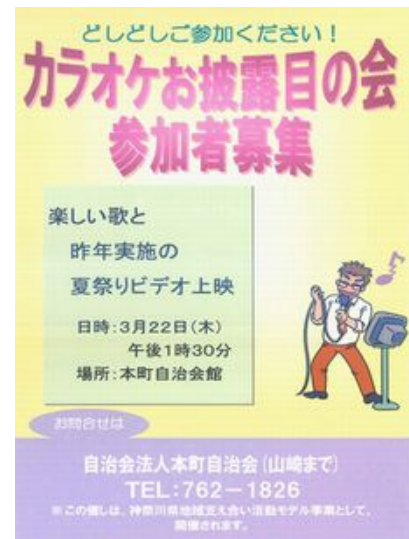
①カラオケお披露目会

- 寿会（老人会）、民生委員がサポートしているサロンの会に集ってもらい、カラオケを披露し趣旨説明をした。全員で合唱を行う。
- 一人で歌にくい人も考慮し、2回目は「皆といっしょに合唱」と題して参加を呼びかけた。
- 4回目は、カラオケだけではなく、昨年の夏祭りのDVD上映や高齢者にやさしい防災関連の話を加えた。防災ブックレットの配布、説明とDVD上映。災害時あんしんシートの説明をし単身者に目立つところに貼ることを勧めた。



②参加の呼びかけ

- 回覧板は自治会と寿会（老人会）2本立てで流した。
- 民生委員からの呼びかけを依頼した。
- 掲示板
- 回覧板、掲示板を見ていない人や一人で出かけるにくい人たちのため同じ班の班長さんに声かけの依頼をした。
- 自治会顧問の方達が自主的に参加者募集に応援の取組みをしてくれた。
- 商店街振興組合にての声かけ



平成24年度以降の取組み

- 任期終了後も現役員がこの事業に積極的に参加し継続することを確認した。
- 子供会、神輿会等若い方達とのジョイントイベント等も考えしっかり次期役員に引き継いでいく。
- 寿会（老人会）は、今後の活動の一環として継続していくことを確認した。
- カラオケの維持管理の財源について取り決めた。（使用料 1回1団体200円。故障修理の料金は自治会の一般会計より負担。）

取組みを継続するための課題等

- 自治会内の内部団体との交流を深め、地域の事業活動への参加を進めていきたい。

高齢者の交流の場の充実のためにミニ映画会を立ち上げ

相模原市南区・自治会法人翠ヶ丘自治会

地域の概要

地域名 翠ヶ丘自治会区域（相模原市南区松が枝町、相南1～4丁目の一部）

交通 : 小田急線小田急相模原駅から徒歩15分

住宅の状況 : 戸建て住宅 1,940戸（自治会入会戸数）

人口 : 4,933名（自治会会員数）

地域の概況 : 戸建住宅地が多く、区域内70%以上の住民が自治会に入会している。道路幅が狭い所が多いためか交通量は多くなく、坂道も少ない。戦後の開拓地であるため、最近、初代と二代目の入れ替わりが多くなってきており、一人暮らしの高齢者も増加傾向にある。

課題

○高齢者の方々が安心して生活できるよう、二年前に自治会福祉部を立ち上げた出会いの機会を多くすることを目標に取り組んできたが、引き込みがちな高齢者も多く、その対応が課題である。

取組みのきっかけ

○高齢者を対象としたサロン（水曜サロン）の参加者がビデオテープを持参されたことをきっかけに、ミニ映画会を企画することとなった。

取組みの内容

取組みの概要

○高齢者の交流の場の充実させるため、ミニ映画会を新たに立ち上げる。

開催回数等（実施期間 H23. 12. 14～H24. 3. 26）

○ミニ映画会 20名参加
3月11日（日）

成果

○今回は日頃閉じこもりがちな高齢者の参加があった。

○その方が、皆の会話に参加した。

○会場内に笑い声が絶えず、楽しんでいただけた。

○参加者の中から、「使用していないビデオやDVDを提供してよい。」との申し出があった。

取組みを実施した中で注意した点・工夫した点

①「ミニ映画会」の準備

- 担い手は自治会福祉部員5名、ボランティア員20名
- 会場の広さからすると入場者は20数名だが、対象者は120名程いる。そこで、初めての「ミニ映画会」としては、会場近辺に在住の高齢者に直接声をかけることにした。
- 見守り訪問のついでに「ミニ映画会」の企画をボランティア員に説明してもらった。
- 上映する映画は、笑いのある楽しい映画にした。



②「ミニ映画会」の開催

- 映画上映。その後お茶を飲みながらの懇談会を行った。
- 上映映画の批評から子ども時代の懐かしい映画の話、昔の自分の仕事の話等、次々と話はずみ、参加者の交流が深まった。
- 家にこもりがちだった方が熱心に話をされていた。知っている人はびっくりし、その変化を喜び合った。
- 高齢者は話し合いの場に飢えているのではないか。映画会そのものよりも、その後の懇談の方を充実させることが必要ではないかと思われた。



平成24年度以降の取組み

- 自治会総会で、全会員に、月1回のミニ映画会の企画があることを報告する。
- 自治会館再建が計画されており、完成時は70名参加できる。

取組みを継続するための課題等

高齢者支援のためのデータベース作成

相模原市南区・新淵第二自治会

地域の概要

地域名 新淵第二自治会相模原市南区古淵六丁目～鶉野森一丁目地内)

交通 : JR横浜線古淵駅から徒歩15分

住宅の状況 : 集合住宅18棟 (5階以上マンション3棟 3階以上集合住宅11棟 2階以下集合住宅6棟) 戸建て住宅 251戸

人口 : 1,321名 65歳以上394名 (29.8%) 75歳以上183名 (13.8%)

地域の概況 : 古淵6丁目地域は昭和34年頃から山林・農地が宅地化され、現在は空き地、数区画を残し宅地化されている。鶉野森一丁目地内は平成6年～平成10年に中高層マンション3棟が建設された地域。お住まいの方は遠方市町村からの転入者が多い。

課題

- 近年高齢化が進み、高齢世帯特に一人世帯の会員が増え隣近所のコミュニケーションが不足しており、自治会役員としても在住者がよくわからない。
- これらの会員から緊急の連絡をいただいても、日頃の付き合いがなく、また情報がないので即座の対応ができない状況である。

取組みのきっかけ

- 少なくとも自治会役員が高齢者世帯特に一人暮らし者情報が事前に把握できていると緊急時の対応が可能となり、そのためには個人カルテ等（名簿）の備えが必要である。

取組みの内容

取組みの概要

- 高齢者支援データベースを作成する。意識調査手法（同意方式）で実施し、一人暮らしの人及び病弱者に対する将来の支援方法の模索や災害時に活用できる情報の名簿を新たにデータ化した。
- 調査研究事業委員会（自治会役員や民生委員、老人会役員、一人暮らしの会の世話人中から14名を準備会で選出）で実施

開催回数等（実施期間 H23. 12. 14～H24. 3. 26）

- 工程
意識調査票の作成 1月24日～2月12日
意識調査 2月13日～3月10日
結果集計・解析 3月15日～3月24日
データ化 3月10日～3月24日
- 対象者は80歳以上、一人暮らし者、虚弱と思われる者及び希望者
78名 回答者60名

成果

- 調査には協力的であり、高齢者の状況が把握できた。
- 調査を通じて、病院への足を要望した方が実際に送迎ボランティアの実施につながった。
- 独居の方が家の中で骨折したが、訪問調査をした者に電話してきたため、すぐに対応ができた。

取組みを実施した中で注意した点・工夫した点

①実施に関する話し合い

- 初めて自治会役員に説明したとき、個人情報等で必要ないとの意見も出たが、個人情報保護法の理念を勉強して事業を開始した。
- インターネットで官庁・先進地のホームページから情報収集を行った。
- 準備会1回、小委員会2回、委員会4回会議回数を増やして話し合いを重ねた。



②調査方法

- 調査協力を得やすくすること、調査精度を高めるため、日頃自治会に関わりの多い委員会委員を調査員とした。



平成24年度以降の取組み

- 委員会の組織は継続し、委員も留任していただき、その人たちを核として、今回情報収集した名簿対象者への定期訪問活動を検討する。
- 自治会で月2回（土）に行っている、日中防犯を目的とした挨拶パトロールとあわせて訪問する活動とする、
- 調査で関心があった盆踊り大会や餅つき大会等のイベントに、歩けない人は車椅子などで付き添いするなど参加を支援する。
- 電球交換や植木剪定の時期等に訪問し、希望内容により、ボランティアチームの処理、業者紹介やシルバー人材センターにつなぐ等の対応を行う。

取組みを継続するための課題等

- マンション関係の管理組合へのアピール不足。
- ボランティアチームへの活動時の需用費（お茶代）の予算化。

災害時への備えと普段の見守りの充実

相模原市南区・自治会法人相武台団地連合自治会

地域の概要

地域名 相武台団地（相模原市南区相武台）

交通 : 小田急線相武台前駅からバス

住宅の状況 : 集合住宅（4・5階建）94棟2,540戸（商店街を含む）

人口 : 約4,853名 65歳以上 1,755名（36.2%）

地域の概況 : 昭和40年着工、昭和42年入居開始の団地。平坦地。米軍厚木基地近く、航空機の騒音多い。米軍座間キャンプと隣接し、各種行事にて交流あり。

課題

- 高齢化の進行や地域におけるつながりの希薄化。
- 集合住宅のため、身体の不自由な方を階段から降ろす手段として担架等が考えられるが、階段が狭いことかつ複数の人員を要するため、地域の課題となっていた。

取組みのきっかけ

- 平成22年度後半から「声かけ運動」として取り組んでいるが、「声かけ運動ボランティア」を充実させる必要がある。

取組みの内容

取組みの概要

- ボランティア確保のための募集、講演会。
災害時要援護者支援ボランティアとして、日頃から随時声かけ運動を実施してもらう。
- ボランティア活動を理解してもらうため、ブルゾン、名札の着用。
- 階段昇降補助具を配置。

開催回数等（実施期間 H23. 12. 14～H24. 3. 26）

- ボランティア 77名確保
- 講演会 約100名参加。
3月4日（日）

成果

- 声かけボランティア77名確保。
- 階段での避難器具を配備したことで、安心感につながった。

取組みを実施した中で注意した点・工夫した点

①日頃の活動の理解を広める

- 災害時だけでなく日頃の支え合いの機運を高めるために、講演会「みんなで高める地域防災力」を広く受講できる形とした。
- 災害時要援護者支援ボランティアとして、日頃から随時声かけ運動を実施してもらう。
- 活動時はボランティア用ブルゾン、名札を着用することとした。要援護者からは信頼が得られ、ボランティア活動がより円滑に行えるようになった。



②階段避難車の配備

- 狭いスペースで、単独または少人数で使用できる機種を選定した。
- 使用の実演、ボランティア説明会での使用方法説明、自治会館での展示等で周知に努めた。



平成24年度以降の取組み

- 今後とも継続してボランティア募集、ボランティア講習会をしていく。
- 階段避難器具は、今後も操作の習得機会を設ける。
- ボランティアの活動内容を明確にするため、ボランティアによる検討会を設ける。

取組みを継続するための課題等

- 住民ボランティアと要援護者の住居がアンバランスである。

立ち上げて間もないふれあいサロンを充実させる

平塚市・横内団地連合自治会

地域の概要

地域名 神奈川県営横内団地（平塚市横内）

交通 : JR東海道線平塚駅からバス約20分

住宅の状況 : 集合住宅2～5階建 50棟 1360戸

人口 : 約2,000名 65歳以上1200名(60%) 75歳以上600名(30%)

地域の概況 : 県営横内団地は、設立以来45年。現在は交通や買い物環境が整っている。
高齢化が進み、外国人居住者も多い。

課題

○入居時30代だった人も70代となり子供達も外に出て連れ合いを亡くされた一人暮らしの高齢者（65歳以上）が、団地住民の60%にもなる。

取組みのきっかけ

○平成22年度の神奈川県孤独死防止対策事業と平塚市の地域福祉推進事業を通して、自治会としても高齢者や身障者に対する福祉支援活動に取り組むこととなった。

○平成23年8月から、月に1回集会所ホールを開放しての“ふれあい広場”を開設した。回数が進むにつれて、様々な意見や要望が出てくるようになった。

取組みの内容

取組みの概要

- サロンの場に、湯茶用品やTVやオーディオ機器を設置し、飲み物を飲みながら、TV等も楽しみ過ごせるような場作りを行った。
- 自治会役員その他、社協、民生委員に協力要請をし、了解を得た。

開催回数等（実施期間 H23. 12. 14～H24. 3. 26）

- 毎月第3日曜日午後1時から4時まで開設。

成果

- 参加者は増えてきた。
- 参加者が自主的に折り紙作成や童謡・唱歌の合唱を行ったりして楽しむようになった。
- 以前は、お茶を飲んで帰っていた方が多くいたが、TVの話題等で和気藹々と過ごしている。
- 参加者の意見も活発に出るようになった。（観たいDVDやカラオケをやりたい等）
- TVを目的に足を運ぶ方が増えた。地デジ化対応TVに買替えできない世帯もあるようだ。

取組みを実施した中で注意した点・工夫した点

①サロンで過ごしやすくする

- 以前はスタッフの労力軽減のため紙コップを使用していたが、熱い、持ちにくいとの声があり、もち手があり底の広いマグカップにしたところ、参加者から好評だった。
- 参加者のスナップ写真を撮り、数枚渡したところ、大変喜ばれて御近所の友達に見せて勧誘してくるとのこと。口コミの材料となった。



②参加者の声を聞く

- 飲み物を入れるのは参加者が自主的に行う（セルフサービス）ようにし、スタッフは安全管理と相談事や話し相手となるよう心がける。
- 自治会活動として今までは年1回の“ふれあい祭り”で高齢者と接していたが、サロンを開催してからは、参加者の意見が聞けてこれからの活動に大変参考になる。



平成24年度以降の取組み

- 参加者同士の名前がわかり、親しく名前と呼べるように名札の用意。
- 団地内のサークル団体（舞踏、フォーク、フラ等）に協力参加を呼びかける。
- 県や市で作成した防災に関するDVDを見せて、震災時の自治会の対処方法や高齢者の対処方法の検討に役立てたい。

取組みを継続するための課題等

- 会場に行きたいが歩行が困難のため行けない人に対して考慮してほしいとの意見もあるが、これからの検討課題である。

災害時及び平常時の要援護者支援体制の確立

平塚市・大神地区町内福祉村「大神よりきの郷」

地域の概要

団体名 大神地区町内福祉村「大神よりきの郷」

団体の目的：大神・吉際地区の住民が主体となり、行政や企業、団体等と協働し、人とのふれあいを大切にして生き、支え合う心豊かに生活できる福祉の村づくりを、住民主体で推進することを目的とする。

地域名 平塚市大神

交通：JR東海道線平塚駅からバス

住宅の状況：戸建て住宅

人口：5,305人 65歳以上 1,019名(19.2%) 75歳以上 386名(7.3%)

地域の概況：平塚市北東部に位置し、農村風景が残るが、大神工業団地の形成、国道129号線沿いであって厚木ICに近く「ツインシティ計画」により、大きく変化する地域。

課題

○誰でもが安心して住むことができる地域づくりを目指し、自治会役員10名、地区社協役員3名、民生児童委員11名、福祉村5名、包括支援センター1名の計30名により「地域福祉推進会議」を平成20年3月に立ち上げ、地域福祉の実践活動を行い、協働して推進してきた。

取組みのきっかけ

○平塚市で推進する「災害時要援護者避難支援プラン」に基づき、災害時又は平常時の高齢者、障害者、病弱者の方々が安心して生活が出来る体制づくりを推進していきたい。

取組みの内容

取組みの概要

- 要援護者支援のつどい
支援者に、支援の取組みについて説明。
- 地域支え合い活動モデル調査研究事業報告会
- 地域支え合い活動モデル調査研究事業報告書作成
- 安心カード及び防災グッズの配布（支援者・要援護者）

開催回数等（実施期間 H24. 1. 13～H24. 3. 26）

- 要援護者支援のつどい
2月25日（土） 参加者64名
- 報告会
3月24日（土） 参加者 86名
- 報告書作成
500部
- 安心カード・防災グッズ配布
○名

成果

- 地域の要援護者対策が実践できた。支援者や要援護者の安心感を高める事ができた。
- 報告書の作成によってまとめる事ができ、今後の活動に役立つ。やり残した点、課題もはっきりし、来年度の取組みにいかしたい。

取組みを実施した中で注意した点・工夫した点

①支援者と要援護者へのサポート

○要援護者支援のつどい

支援者に、支援の取組みについて、平塚市防災危機管理課、大神地区民生委員児童委員協議会、大神よりきの郷から説明。

支援者の方には、自分だけで支援するのかわりという不安があったが、地域全体で支えていくということで、安心された方が多かった。

○安心カード及び防災グッズの配布

安心カード及び防災グッズを民生委員・自治会役員・支援者のチームで要援護者に配布した。

要援護者の安心感を高めることができた。要援護者と支援者の信頼関係を高めることができた。民生委員、自治会役員と支援者との連携が高まった。

なお、支援者にも防災グッズを配布した。



②報告会の開催

○報告会の内容

- ・ 事業報告（大神よりきの郷、民児協）
- ・ 基調講演 板橋区福祉部長 鍵屋氏「災害時要援護者の避難支援と地域の支援体制」
- ・ 地域支え合い活動モデル調査研究事業報告書の配布

○広報

- ・ 地域内は自治会回覧。
- ・ 要援護者、支援者、地域福祉推進委員会メンバー、社会福祉協議会福祉村大神よりきの郷会員に案内状配布。
- ・ 平塚市自治会連合会に案内状送付。

○結果

- ・ 報告書に高い評価をいただき、資料請求も多かった。
- ・ 講演はわかりやすく、今後の活動にヒントになる事が多く、参考になった。
- ・ 地域外からの参加、行政の参加があった。

平成24年度以降の取組み

○きめ細かい要援護者支援活動による安心安全な町づくり

○地域福祉推進協議会活動の更なる充実

要援護者・支援者の掌握及び登録推進

○地域福祉推進協議会研修

・ 支援活動について ・ 防災活動について

○指定避難所・一時避難所の整備

○地区内公共施設及び民間介護施設との連携

取組みを継続するための課題等

○各団体の役員は2年交替となる場合が多く、地域の福祉力向上のため「地域福祉推進会議」を継続し、実効力のある組織に位置づける。

○現在事務局を福祉村が担当しているが、連携を進めながら、機能的運営ができるようにしたい。

新しい団地に交流の場をつくる

鎌倉市・レーベンスガルテン山崎自治会

地域の概要

地域名 レーベンスガルテン山崎（鎌倉市山崎）

交通 : JR線大船駅からバス又はモノレール富士見町下車。

住宅の状況 : 集合住宅8～9階建 7棟 440戸

人口 : 1,180名 65歳以上(25%) 75歳以上(10%)

地域の概況 : 平成12年UR都市機構賃貸住宅として完成。全440世帯のうち40世帯は市営住宅として扱われている。賃貸住宅のため居住者すべて移住者のため、地域との交流が少ない。

課題

○居住者全員が移住者であるために、地域住民との交流が少ない。

取組みのきっかけ

○自治会として、団地のまつり、運動会、ソフトボール等交流の場を広げるべく努力している。
○高齢者を対象に「レーベンス茶話会」を組織し、年4回程度のサークル活動を企画運営しているが、今後設備充実を図り、より自由に参加できるサークル活動を月例化する方向に持っていきたい。

取組みの内容

取組みの概要

○「レーベンス茶話会」の活動の充実。
血圧計・体脂肪計を設置し、常に自分の数値を把握できるようにした。
生演奏、講演等のプログラム実施。
○映画サロンの立ち上げ
○カラオケサロンの立ち上げ。

開催回数等（実施期間 H23. 12. 14～H24. 3. 26）

○茶話会
生演奏 2月4日（土）13:30～15:00
確定申告セミナー 2月18日（土）10～11:30
○映画会
1月28日（土）13:00～16:00 大人向け
○カラオケ
3月24日（土）19:00～

成果

○映画やカラオケの参加者から交流の場ができたことに喜びの声があった。
○自治会への理解が以前より得られるようになった。
○参加者の住民同士の挨拶・会話が多くなってきた。
○新たな交流の場や見守りについての要望があがってきた。

取組みを実施した中で注意した点・工夫した点

①広報の工夫

- 参加者募集について毎月発行の「自治会だより」に掲載及び掲示板にポスター掲示。
- 開催の1週間前に各棟各階段の方が呼びかけを行う。
- サロンの様子を写真に撮り集会所に掲示、希望者に手渡す。
- 同時にサロンの様子を「自治会だより」にて案内・紹介した。
- 事務局で作成した“自治会案内（行事等）”を本編の上映前にニュースとして放映した。



②参加者の声を聞く

- 映画会サロンやカラオケサロンの後に、参加者から意見を伺う。
- 映画会はアンケートを実施。



平成24年度以降の取組み

- 月例会として“映画サロン”を実施していく。
- 月例会として“カラオケサロン”を実施していく。
- 70歳以上を対象とした茶話会を年6回とし、親睦・情報交換の場を増やしていく。
- 母親からの意見を取り入れ“ママCafé”を設置。（親子交流、母親の交流、親睦・情報交換の場をつくる）
- 緊急時のエレベーター停止に備え、防災グッズを設置する。
- 隣接するあかね会（山崎地区の敬老会の総称）と交流すべく検討中。

取組みを継続するための課題等

- 講演会・演奏会等の謝礼の自治会全額負担は厳しい。

カラオケの参加者を増やす取組み

藤沢市・善行団地自治会

地域の概要

地域名 善行団地（藤沢市善行団地）

交通 : 小田急線善行駅からバス

住宅の状況 : 集合住宅5階建 2,476戸

人口 : 65歳以上の世帯主 54% 独居世帯 30% (2011年アンケートによる)

地域の概況 : 昭和40年入居開始の団地。駅からはいったん下りあがった丘の上にある。団地の南側は戸建ての住宅地、北側は畑。団地内にはかつて店が多かったが現在は閉店が増えて、駅まで行かないと買い物ができない。

課題

○団地内ではアンケートの結果、60歳以上の世帯主が非常に多く、家の中に閉じこもって、居住者間でのコミュニケーションを図ることが困難になり続けている。

取組みのきっかけ

○高齢者の健康増進とストレス解消のため、カラオケで歌うことを取り上げたが、機器が古いので参加率が低下してきた。

取組みの内容

取組みの概要

○閉じこもり防止、健康増進のためカラオケ活動を充実させる。

開催回数等 (実施期間 H23. 12. 14~H24. 3. 26)

○11回延べ参加人数338名

○新年会でのカラオケ大会

1月8日(日) 自治会

1月12日(木) 寿会

○カラオケクラブ

第1第3 水、土

成果

○参加者増。カラオケサークル会員数10名増。

○会場内が和気藹々となり、楽しさ倍増した。

○夏祭りなどのイベントの際、歌を披露してくれる人、司会をしてくれる人などの人材が発見できた。

取組みを実施した中で注意した点・工夫した点

①カラオケ活動の充実

- カラオケ参加者が減少している要因について検討。カラオケの効用の広報不足、現在のカラオケ機器の老朽化、歌える曲数が少ないことからの魅力不足等が原因と思われた。
- 新規にカラオケ機器を購入して設置した。
- 懐メロや唱歌が多く用意されたことで、懐かしくなって楽しさ倍増した。
- 他の人とは違う曲を披露する人も出てきて、会を重ねるごとに曲が増えてきている。

②広報

- 広報は「自治会ニュース」へ掲載。
- カラオケサークル員、過去にカラオケに参加した人に連絡をした。
- 団地新年会や寿会（老人会）の新年会にて機器を公開し、カラオケ大会を行った。



平成24年度以降の取組み

- 「楽しく歌って心もからだもリフレッシュしよう」で参加者募集。
- UR都市機構や地域包括支援センター等の他団体との共同事業の取組み
- 他団地自治会との交流で利用する。
- 平成24年度の夏祭りでのカラオケ発表。

取組みを継続するための課題等

- 今年の新曲も取り入れられる機器を追加してほしいとの要望が出ており、今後の検討課題となっている。

パソコン教室・料理教室の立ち上げ

藤沢市・コンフォール藤沢自治会

地域の概要

地域名 コンフォール藤沢団地（藤沢市藤が岡）

交通 : JR東海道線藤沢駅から徒歩13分（バス5分）

住宅の状況 : 賃貸16棟（790戸）・分譲7棟（170戸）（14階建） 計960戸

人口 : 約2,000名 65歳以上（48%）

地域の概況 : 旧藤沢団地（昭和37年入居開始）が建替え事業により、平成13年10月コンフォール藤沢として入居開始。標高50m程度の丘の上にあり、駅に向かうには急坂となっている。ミニバスがあり、利便性はよい。

課題

○高齢化率が48%、65歳以上で独居の世帯が41%。

取組みのきっかけ

○自宅に閉じこもりがちとなる高齢者（特に男性）が少しでも外に出て、住民同士が交流する機会を持つことをしたいと考えていた。

取組みの内容

取組みの概要

○初心者向けパソコン教室
パソコンを持っていない人も含めて、初心者へのパソコン教室を開催した。

○男の料理教室
料理研究家の講師と相談し、メニューを決める。

開催回数等（実施期間 H23. 12. 14~H24. 3. 26）

○初心者向けパソコン教室（2回開催）
2月19日（日）10時~12時 12名参加
3月4日（日）10時~12時 10名参加

○男の料理教室（3回開催）
1月29日（日） 10名参加 + 子ども2名
2月26日（日） 12名参加 + 子ども4名
3月18日（日） 10名参加 + 子ども4名

成果

○パソコン教室は、初心者の方がそれぞれの目標を持ち参加する機会となった。

○料理教室は、幅広い年齢層が参加し、想定外の住民交流ができた。楽しく、おいしく参加できたと満足した方が多かった。レシピを見て、自宅で作ってみたとの声もいただいた。

取組みを実施した中で注意した点・工夫した点

①料理教室

- 料理教室では、料理を覚えたり、考えたり、自炊することにより、健康維持につながることを視野にいれた。
- 講師をどうするかが不安であったが、紹介をいただき、料理研究家につながった。
- 参加しやすいように、電話、ファックス、メールの三通りの方法で受付を行った。
- 団地の集会所や台所が料理教室に適していないため、卓上ガスコンロを用意する等の準備を行った。
- 有志による包丁研ぎサービスを同時実施。



②パソコン教室

- パソコン教室では、参加者のそれぞれ学びたい技術を身につけることからはじめ、ゆくゆくはネットスーパーでの買い物が出来ることを視野に入れた。
- 藤沢市老人クラブ連合会 IT部を講師として協力を得た。
- 参加しやすいように、電話、ファックス、メールの三通りの方法で受付を行った。
- 技術の習得には時間がかかるので、それぞれの目標に向けたフォローを続ける必要がある。



平成24年度以降の取組み

- パソコン教室は2回だけでは身につかないので、講師・スタッフで話し合い、継続することとした。
- 料理教室は、自治会としては場所の提供と広報を行う。材料費等は参加者負担をお願いして継続する方向で検討している。

取組みを継続するための課題等

- パソコン教室は長いスパンで計画しないと身につかない。また、機材としてプロジェクターが必要。

交流サロンと災害時対策を充実させる取組み

藤沢市・辻堂団地自治会

地域の概要

地域名 辻堂団地（藤沢市辻堂西海岸）

交通 : JR東海道線辻堂駅からバス10分、もしくは徒歩約20分。藤沢駅からバス20分。

住宅の状況 : 5階建 29棟 1,311戸

人口 : 総人口 データなし 65歳以上人口 不明 75歳以上 360名以上

地域の概況 : 湘南海岸より約500m。団地南側は県の海浜公園と市の汚水処理場。東側は分譲住宅地（5階）小・中学校。西側は茅ヶ崎市に隣接。北側は国道に面し、低層住宅街が駅まで続く。大きなスーパーまで約10分。高齢者の増加が目立つ。

課題

- 自治会は高齢者向けの交流の場を設けているが、参加する人たちの広がりを目ざしたい。
- 生活支援も若手の十分な人手を確保できない。
- 居住者数等の正確な把握も難しい。

取組みのきっかけ

- 孤独老人を助け、健康な生活を支援するために、高齢者を中心とした行事を企画し、少しでも多くの人に参加を促したい。
- 事故や災害に対し、自分で自分を助ける体力と準備をするきっかけをつくりたい。

取組みの内容

取組みの概要

- 講演会を開催。
「震災と健康」「正しい姿勢と正しい歩き方」
- 健康体操指導会
- クリスマスコンサート、幼稚園児との交流、クッキー作り等を行う。
- 災害対策として、団地内で移住した要援護者や援護協力者の追跡、避難場所の確認と表示作り、テント、車椅子の購入と使用練習を実施した。

開催回数等（実施期間 H23. 12. 14～H24. 3. 26）

- 講演会 2回開催 各50名参加
2月16日（木）11時～
3月15日（木）11時～
- 健康体操指導会
毎月最終木曜日 11:15～12:00
4回開催
- クリスマスコンサート 80名
12月22日（木）11時～
- 幼稚園児とのひな祭り 50名
3月1日（木）11時～

成果

- 今までの交流サロンより多くの人が集まった。
- 実行委員たちには負担が大きかったが、参加者の感謝の声や喜ぶ顔で、よかったという思いがあった。習慣化しがちな活動を、今後どうするかと考える積極姿勢と問題点を考える研究心につながった。

取組みを実施した中で注意した点・工夫した点

①交流の場の充実

- 行事と交流サロンをあわせて開催。講演会の後も講師と一緒にコーヒーを飲んで歓談をした。
- 冬場に暖かく過ごせるように、椅子敷物を用意した。また、弁当を温められるようにした。
- クッキーやポップコーン作り等を取り入れた。場が和んだ。



②参加しやすくする工夫

- 一人で参加できない人も多いと思われたので、階段や近くの人への声掛けをしてもらった。
- 行事を写真に撮り、掲示板に張り出し、活動をわかりやすくPRした。



平成24年度以降の取組み

- 新役員に引継ぎ、継続する。

取組みを継続するための課題等

- 一部役員に負担が集中しがち。
- 自治会福祉部とのより密なつながりと意見交換が必要。ボランティアスタッフたちの日頃の実感や提案を、今後は時間をかけて伺い、役立てるのがよいと思う。
- 今回の事業期間中はほとんど他団体との交流はなかった。今後、特に他の団地との意見交換の場が持てる事が望ましい。

新たな連携体制で災害時に備えた取組みを行う

茅ヶ崎市・鶴が台団地自治会

地域の概要

地域名 鶴が台団地（茅ヶ崎市鶴が台）

交通 : JR東海道線茅ヶ崎駅からバス15分

住宅の状況 : 78棟（4, 5階建）2,413戸

人口 : 4,680名 65歳以上1950名（41%）

地域の概況 : 団地内に小・中学校、郵便局・銀行・マーケットがあり、周辺にも中規模の商店がいくつもあり、利便に富んでいる。地形はフラットで、緑や公園も多い。

課題

- 高齢化のいっそうの進展やニーズの複雑化・多様化
- 地域では自治会をはじめ諸団体が、高齢者等に目を向けた活動を進めているが、これまでには、各団体が、それぞれ独自に活動を展開してきた。

取組みのきっかけ

- 諸団体の交流・学習・連携を深めて、これまでの活動の発展と、新たな活動の展開を図ることとした。

取組みの内容

取組みの概要

- 自治会、民生委員児童委員、老人会、地域社協、防災関係者で「見守り地域支え合い協議会」（仮称）を設置し、共通認識を持ち、連携した体制で、災害対策を実施。
- 地域支え合い活動の先進地域の活動を見学
- 「集合住宅」での防災対策に関する講演会
- 災害時の安否確認訓練、要援護者交流集会
- 初めて災害対策本部立ち上げ訓練を実施

開催回数等（実施期間 H23. 12. 14~H24. 3. 26）

- 協議会 : 2ヶ月に1回開催
- 講演会 : 110名参加
3月18日（日）16:00~18:00
- 安否確認訓練 : 11棟310戸対象 220人参加
2月26日（日）11:00~12:00
- 要援護者交流集会 :
3月15日（日）13:30~15:00
対象者40名（150名中） 団地スタッフ20名
- 災害対策本部立ち上げ訓練 2月16日（木）

成果

- 情報交換や意見交換だけではなく、一緒に活動することで実際に役に立つ連携が育ってきた。
- 「協議会」で事前打合せ、役割分担をして準備し、格段にスムーズな運営となった。

取組みを実施した中で注意した点・工夫した点

①災害対策本部立ち上げ訓練

- 「協議会」の中で提案があり、初めて実施の運びとなった。今回は訓練要綱案の作成、自治会での確認、関係団体の了解を得て、関係団体に案内を送った。
- 2月16日（木）午後3時に、震度5の地震が起こったと仮定して実施。
自治会運営委員・民生委員児童委員・防災対策部員・防災リーダー24名が参加。
- 実施してみて、集まりはしたものの何をやるのかの準備が不十分であることがはっきりした。来年度に向けて、組織体制や活動内容、準備すべき備品や用具についての検討が不可欠であるとの共通認識となった。



②他の自治会との交流

- 先進地域見学
同時期に建設されたUR賃貸住宅としての共通した環境における地域支え合いの実際を知る事ができた。
また、立地条件の違い等を比較し、自分たちの団地の特性を知る事ができた。
- 近隣自治会への講演会参加案内
役員の参加があり、共通課題を認識しあう事ができた。



平成24年度以降の取組み

- モデル事業実施をきっかけに定常的な協議組織として位置づけられた「見守り地域支え合い協議会」（仮称）は、地域にとって欠かせない協議団体として定着する運びである。
- 安否確認訓練、要援護者交流会は、これまで行政が主体で実施してきたものであるが行政も徐々に地域独自の取組みとして切り替えを図りたいとの意向を持っている。次年度の自治会を中心とした事業として継続は可能と考える。
- 災害対策本部立ち上げ訓練も自治会を中心とした事業として継続する。
- 他の団地自治会との情報交換や交流の場について検討。

取組みを継続するための課題等

- 先進地域への見学、講演会は、次年度以降の実施は、予算面での工夫が必要。

子どもや高齢者が気軽に集える場作り

茅ヶ崎市・浜見平団地自治会

地域の概要

地域名 浜見平団地（茅ヶ崎市浜見平）

交通 : JR東海道線茅ヶ崎駅からバス

住宅の状況 : 5～8階建 浜見平団地 : 73棟2,707戸 コンフォール茅ヶ崎浜見平 : 5棟417戸

人口 : 3,954人 65歳以上1,736名 (43.9%) 75歳以上人口 885人 (22.3%)

地域の概況 : 浜見平団地は、昭和39年3,407戸で入居開始した湘南の大規模団地である。平成17年3月、建替計画に伴い、第1期工区（先工区）417戸着手し、平成23年3月より入居開始した。浜見平団地は、全面建替のため、完成までは15～20年かかる予定。先に行われた全国自治協のアンケート調査でも、60歳以上の世帯主が80%を越えている。

課題

○団地の少子高齢化

取組みのきっかけ

○平成23年8月よりUR（都市再生機構）と自治会、浜見平支援研究会（横浜国大・日大）と、高齢化する団地の中で、子育て支援を含み、団地のコミュニティの活性化を図るため協議をした。

○話し合いの中で、「住民がいつでも来て話し合い、友好を深めあえる場所を創設する」こととなり、試験的に「ふれあいカフェ」を開設した。

取組みの内容

取組みの概要

○住民が立ち寄り、友好を深めあえる場所「ふれあいカフェ」の充実を図る。

開催回数等（実施期間 H23. 12. 14～H24. 3. 26）

○2か所 各月2回 開所
13:00～18:00

○平均参加者人数
大人 15～20名 子ども（小学生）
20～30名

成果

○ゆっくり話し合う場が出来てうれしい。（大人）

○皆といろいろな遊びができてうれしい。（子ども）

○団地内住民や子ども達の交流ができ、住みよい団地の一助となる。（学生）

取組みを実施した中で注意した点・工夫した点

①「ふれあいカフェ」の充実

- テレビビデオを設置し、テレビ視聴、ビデオ鑑賞等が出来るようにした。
- 当初は室内を走り回る子どもが多く、高齢者の方から「会話が出来ない。」との苦情があった。高齢者と子どもと一緒にできることや、子どもたちの遊ぶスペースの確保を検討した。また、子ども達同士でのルール作りを行った。



②広く住民に知ってもらう

- 「自治会だより」（自治会の広報紙）等での広報
- 掲示板や団地の各階段にお知らせのポスターを掲示
- 2月29日 ふれあいクラブかもめの発会式の際に、あわせて披露。

平成24年度以降の取組み

- 開催日を増やし、月4回の開催としたい。
- カフェにおける映画会等のイベントの充実を図る。

取組みを継続するための課題等

- 団地住民だけではなく、地域の住民も巻き込んだ活動にしたい。
- 子どもと一緒に若いお母さん方の参加が望まれる。

新たなふれあいの場を立ち上げ、発会式でPR

茅ヶ崎市・浜見平団地自治会

地域の概要

地域名 浜見平団地（茅ヶ崎市浜見平）

交通 : JR東海道線茅ヶ崎駅からバス

住宅の状況 : 5～8階建 浜見平団地 73棟2,707戸・コンフォール茅ヶ崎浜見平 5棟417戸

人口 : 3,954人 65歳以上1,736名(43.9%) 75歳以上人口 885人(22.3%) (38.6%)

地域の概況 : 浜見平団地は、昭和39年3,407戸で入居開始した湘南の大規模団地である。平成17年3月、建替計画に伴い、第1期工区（先工区）417戸着手し、平成23年3月より入居開始した。浜見平団地は、全面建替のため、完成までは15～20年かかる予定。先に行われた全国自治協のアンケート調査でも、60歳以上の世帯主が80%を越えている。

課題

- 団地内の60歳以上の高齢者が11月のアンケート結果60%以上となっている。
- 独居老人が増え、外出もせず、近所との付き合いを拒否している人が増えている。

取組みのきっかけ

- 今自治会で立ち上げている「いこいの部屋」をさらに充実させるため、新たにふれあい事業を立ち上げることになった。

取組みの内容

取組みの概要

- 高齢者のふれあいと交流の場として、「ふれあいクラブかもめ」を立ち上げる。
麻雀教室、カラオケ教室等を新たに開催。
- 開催に際して発会式を行う。

開催回数等（実施期間 H24. 1. 13～H24. 3. 26）

- 2月29日（水） 発会式 参加80名超
- 会員申込み69名（男性31名 女性38名）
そのうち2月29日の申込み30名。
麻雀教室 49名 カラオケ教室 33名
手芸他 5名（重複登録あり）
- ※その他、教室を見学してから参加したいとの問い合わせが20名以上あり。
- 参加人数の平均
麻雀教室 30名 カラオケ教室 17名
手芸教室 10名

成果

- 「こういう会があればと思っていたので、大変よかった。」との声が寄せられた。
- 「ふれあいクラブかもめ」入会にあたって、自治会に入会した人もあった。

取組みを実施した中で注意した点・工夫した点

①会の立ち上げの周知

○会の立ち上げに際して発会式という大きなイベントを実施。

第一部 発会式 第一期事業と第二期事業の披露を同時に行った。

第二部 歌謡ショー

ふれあいカフェ、健康麻雀教室
豚汁の販売、甘酒の配布

○多くの人に出てきてもらうことや、知ってもらうことを狙った。

○団地内にポスター掲示

○会員募集と発会式のお知らせを全戸配布



②カラオケや健康麻雀の効用をPR

○カラオケは「声を出してすっきり」「声を出すことが健康維持」と効用をチラシや案内状等に記載している。

○麻雀はギャンブルでなく「健康麻雀」であること、「手先を動かし考えることにより脳を活性化」等を記載している。



平成24年度以降の取組み

○カラオケ教室、月2回開催。年1回発表会

○麻雀教室 月2回開催。年1回大会。

○他の教室の立ち上げ検討。

取組みを継続するための課題等

○カラオケ教室の通信カラオケの料金が月12,000円かかるので、会員数を増やす等をして、収入の確保が必要。

住民の力が生かされた交流活動・災害対策

逗子市・山の根自治会

地域の概要

地域名 山の根自治会地内（逗子市山の根）

交通 : JR横須賀線逗子駅から徒歩

住宅の状況 : 戸建て住宅 480戸

人口 : 1474名 65歳以上413名 (28%) 75歳以上213名 (14%)

地域の概況 : 戸建てを中心とした古い純然たる住宅地。中心市街地に近く生活の利便性がよい。二つの南に開けた谷戸と県道沿いに住宅が広がり、そのほぼ中心に熊野神社がある。世帯主の殆どが勤労者か年金生活者で、年間住民の5%が入れ替わっている。高齢化率は全市の平均をやや上回る。

課題

○高齢化に伴う、日常の安否確認と生活支援のあり方、地震災害時等非常時に、地域はどうか対応すべきかが課題。

取組みのきっかけ

○基本は人と地域を知るという認識に立ち、自治会の中に「お互いさま山の根」というボランティア組織を立ち上げ、サロン活動を通して地域の交流を図るとともに、災害時の減災のあり方を模索してきた。

取組みの内容

取組みの概要

- 共に歌うサロン「歌おう会」を立ち上げて、住民の交流を深めるとともに福祉に役立てる。
- 避難地図を作成・配布して地域住民の避難行動に役立てるとともに、作る過程を通して関係者の防災レベルの向上を図る。
- 津波及び火災避難路の設置により、災害時地域住民の避難行動を容易にする。

開催回数等（実施期間 H24. 1. 13~H24. 3. 26）

- 歌おう会 34名参加。
3回の練習会、老人ホーム訪問、自治会内発表会。
- 防災地図作り
延べ88人（6回の会合とその他行事）参加。
- 避難路作り
延べ76人（6回の作業と3. 11訓練）参加

成果

- 歌おう会では、歌を通してでないと考えられない人が集まった。50代から60代の男女が新たに加わった。自治会の交流の場を広げた。
- 防災地図作成の過程で、参加した地域の防災関係者が地域をよく知る事ができた。
- 避難路作りでは共同作業を通して防災関係者の連携を深めると共に、地域の防災意識を高めた。津波や火災に対する具体的減災の対策となった。

取組みを実施した中で注意した点・工夫した点

①「歌おう会」の立ち上げ

- 発足相談会：従来の単発のサロン活動とは別に、練習の繰り返しによって参加者の意欲や達成感が味わえる継続的な活動として、幅広い層が参加しやすい「歌」をサロン活動に取り組むことを提案し、賛同を得る。
- 広報：自治会定例会後の発足につき、回覧板での広報ができず、全戸配布。ポスティングは、知的障がい者施設の利用者に社会貢献ボランティア活動として依頼。
- 継続させるため、節目節目にイベントを織りこみ、練習の成果を肌で感じる工夫をした。老人ホームにアトラクションボランティア訪問、自治会内発表会
- 歌を通してでないと考えられない人が集まった。84歳の目が不自由になった男性が歌詞を暗記しているその時代の歌で参加。歌の指揮者、伴奏者等の人材等。



②「避難地図」の作成

- 「防災幹部会」で、地域住民の避難に特化した「避難地図」を新たに作ること、防災関係者が使用している「防災地図」をリニューアルすることを決め、参加者を呼びかけた。
- 自治会役員を含む防災幹部の有志が分担して作成。6回の会合を持った。
- 住民が、普段から避難経路が記憶されるような地図内容を目的とした。
- 掲載する情報：一時集合場所、緊急避難路とその入口、防災倉庫、標高、集合住宅（目印として）、主な建造物名、避難施設名と方向指示
- 避難地図の裏面には、一時集合場所、防災倉庫、緊急避難路、大津波警報発令の際の避難場所等の説明を入れた。
- 駐車場を避難場所として提供、避難路に入るのに庭を通過等、私有地を地図上に掲載することを7名全員から快諾いただいた。

平成24年度以降の取組み

- 「歌おう会」は、歌のレパートリーを広げて、性別・年齢に関係ないサロン活動として定着させていくとともに、広域の福祉活動に役立てていく。
- 避難地図の全戸配布を行う。その際必要に応じて個別の面談を行い周知を図るとともに、災害弱者の実態を把握するのに役立てる。広域防災地図については、毎年を更新を行い地域の対策本部の防災地図として活用していく。
- 避難路は、順次、避難路が利用できる人の幅が広がるように、安全に楽に使えるように改善していく。毎年避難路体験を行う。

取組みを継続するための課題等

- 「歌おう会」は、メンバーが定着して仲良くなるのはよいが、新しいメンバーが参加しにくくならないように、雰囲気づくりが大切である。
- 「歌おう会」の参加者の目的と期待するものが違うので、今後納得いく進め方をしていく必要がある。
- 津波と火災の避難行動が違うので、火災の際の避難場所等はさらに検討が必要。

住民ニーズに対応したボランティアチームの立ち上げ

厚木市・森の里地区地域福祉推進委員会

地域の概要

団体名 森の里地区地域福祉推進委員会

森の里地区住民、各種団体及び福祉関係機関等で構成。だれもが安心していきいきと暮らし、共に支え合う地域社会を築くため、地区住民の福祉ニーズに応じた地域福祉活動を推進することを目的としている。平成22年8月から、支援ボランティア「もりの応援隊」を設立し、生活支援事業を実施している。

地域名 厚木市森の里

交通 : 小田急線愛甲石田駅からバス約20分

人口 : 6,947人 65歳以上人口 1,189人 (17.1%) 2,352世帯 (平成24年3月現在)

地域の概況 : 高齢化率は現在約17.1%だが、年代別構成は50代後半から60歳代が最も多く、10年間で急速に高齢化が進む。

課題

- 独居高齢者や高齢者世帯が増加傾向にある。
- 造成された住宅地であるため、地区内の血縁関係は希薄で、身近で親族からの十分な支援を期待することは困難。

取組みのきっかけ

- 生活支援実施の中で、緊急的に身体介助を必要とする事例が発生し始め、支援員に軽度な身体介助の知識・経験が求められるようになった。
- 地区内には戸建住宅が多く、高齢化に伴い庭の手入れが困難になったことによる草取り支援の依頼が急増した。

取組みの内容

取組みの概要

- ① 生活支援事業充実のため、軽度な身体介助が可能な支援員養成の研修プログラムを作成
- ② ボランティアを募集し、研修を実施
支援ボランティアを、介護支援・除草・一般の各チームに登録し、活動を説明・準備

開催回数等 (実施期間 H23. 12. 14~H24. 3. 26)

- 説明会、研修会に延べ68名参加。
- 登録者数 : 介護支援チーム (7名)
除草チーム (11名)
一般支援チーム (19名)

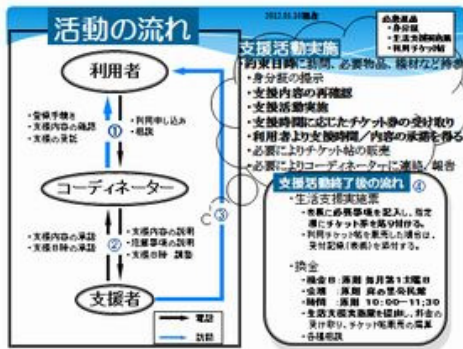
成果

- 研修プログラムが、生活支援事業の活動実態に基づいた内容となり、実際の支援に役立つものとなった。研修受講者に支援を行う上での自信がついた。
- 検討会を通して、地域包括支援センター、介護施設等との連携が強化された。

取組みを実施した中で注意した点・工夫した点

① ボランティア募集・説明会

- 募集案内の自治会回覧。公民館だより・地域福祉便り掲載。多様な広報媒体を利用。
- 募集にあたって、生活支援の目的・活動内容についての説明会を1回開催。



② 研修カリキュラムの作成

- 介護施設等から専門家を委員に推薦してもらい、カリキュラムの検討会を設置し、研修プログラムを作成した。
- 研修は体験学習も含めて3回実施。(13:30~16:30)

第1回 ボランティアとして基本
高齢者支援の基礎知識

第2回 介護技術を体験しよう(実技体験)

第3回 緊急時の対応と行動の仕方 他

住み慣れた地域で安心して生活するために、
もりの応援隊で、一緒に活動しませんか？

ご静聴、ありがとうございました。

森の里地区地域福祉推進員会



平成24年度以降の取組み

- 支援活動のバックアップ体制の強化
支援活動の実績を把握し、活動経験の少ない支援員への活動依頼を促進する。
- 利用者と支援者を結ぶコーディネーターの人材発掘・プール
活動の要であり社会福祉士等有資格者が望ましいので、必要に応じた人材の補充を可能とするため、有資格者募集を継続的に実施する。
- 相談受付も可能とする活動拠点の確保

取組みを継続するための課題等

- 研修の設定日に参加できないボランティアへの対応。
- 日常生活に困難を抱えている高齢者等に、家族以外のサポートを受け入れる意識を醸成。
- 事故や誤解を防ぐため、認知症や身体介助が必要な利用者への対応指針づくり。

買い物支援から住民の交流へつなげる取組み

厚木市・王子三丁目自治会

地域の概要

地域名 神奈川県営文郷山団地（厚木市王子三丁目）

交通 : 小田急線本厚木駅からバス約20分

住宅の状況 : 5階建 7棟 240戸（エレベーターなし）

人口 : 415名 65歳以上160名（38.6%）

地域の概況 : 周辺は坂が多い。自動販売機もなく、買い物ができるところがない。
住民は高齢化がすすみ、単身の高齢者も多い。

課題

○高齢化率が上がり、特に一人暮らしの世帯が多い。団地周辺にはお店はもとより、自動販売機もなく、買い物するにはアップダウンの激しい道を歩かなければならない状況である。

取組みのきっかけ

○毎週木曜日に市内の商店にお願いをし、団地内の公園まで移動販売に来てもらうようになったが、今後はその内容をより充実させて、住民のふれあいの場となるようにしたいと考えた。

取組みの内容

取組みの概要

- 単なる買い物だけではなく住民のふれあいの場となるように、雨風寒さ対策として、テント、ストーブの設置。音楽を流し雰囲気作り。自治会でお茶を振る舞い、コミュニケーションの場となるよう努めた。
- 担い手は自治会役員「木曜マーケット推進委員会」（7名）を中心に行う。運営にはボランティアが携わっている。

開催回数等（実施期間 H23. 12. 14～H24. 3. 26）

○12月15日～3月22日（12月29日を除く）まで毎週木曜14時から14時30分 全14回

成果

- 住民からは非常に好評で楽しみにしているという声を多くいただいている。
- 住民同士が声を掛け合うことが多くなった。実際に体調の悪い人等の情報が自治会長にすぐに連絡がはいるようになり、対応が早くなった。
- この事業をきっかけに、買い物支援以外の福祉的事業（特に、地域包括支援センターの健康相談事業とのタイアップ）の可能性を見出すきっかけとなった。
- 様々な方面から注目を浴び、運営を担う役員のモチベーションがあがり、ボランティアからもやりがいがあるという声がある。

取組みを実施した中で注意した点・工夫した点

①広報の工夫

- 自治会の会合でのPR、地区の公民館便り、回覧板、チラシなどで広報した。
- その他、住民が高齢者で、曜日や時間を忘れがちなため、貼り紙を多くしたり、市の広報車で、毎回開始の10分前にアナウンスをして回ってもらった。



②民生委員とも調整した安否確認

- 民生委員とも調整を図りながら、独居高齢者などのリストと照らし合わせながら安否確認を実施した。



平成24年度以降の取組み

- 今後とも継続。
- 近隣地区の福祉コーディネーターや、市の社会福祉協議会から協力の話があった。新たに社会福祉協議会等と連携して、更なる支援が出来ればと考えている。

取組みを継続するための課題等

買い物支援事業は、市内の商店の協力を得て成り立っている事業である。購買者が少なく商店主の負担になることもあった。買い物支援事業の趣旨を住民に周知して、今後も継続して出店者に来てもらえるよう努めたい。

広く知ってもらうことで福祉活動を広げる取組み

大和市・上和田団地自治会

地域の概要

地域名 上和田団地（大和市上和田）

交通 : 小田急江の島線高座渋谷駅から徒歩約15分。（バスなし）
小田急江の島線・相模鉄道の大和駅からはバスで約20分。

住宅の状況 : 集合住宅5階建 43棟 1,319戸

人口 : 2,468名 65歳以上615名（25%） 75歳以上343名（14%）

地域の概況 : 入居開始は昭和44年で、43年が経過。国道467号線からかなり急な坂を下ったところにある。団地内はほぼ平坦。

課題

○地域支え合い活動として、2007年12月自治会に「福祉対策委員会」を設け、高齢者を対象に「安否確認」「ごみ・資源出し」「診察券出し」を行っているが、活動が十分に広まっていなと思われる。

取組みのきっかけ

○より効果のある広報活動を行うこととした。

取組みの内容

取組みの概要

- 大和市地域福祉計画、自治会福祉活動の説明会。プロジェクターを使用し、市の福祉計画、自治会活動の広報を深め、支え合い活動の拡大を行う。
- 長寿会での「安心登録カード」の説明。
長寿会の新年会にあわせて行う。
- 高齢者の話し合いの場づくり

開催回数等（実施期間 H24. 1. 13～H24. 3. 26）

- 説明会
3月9日（金）14:00～15:30
51名（男性23、女性28）参加。
- 安心登録カードの説明
2月5日（日）約60名参加。
13名の新規登録（6年間の登録者40名）
- 高齢者の話し合いの場づくり（月1計2回）
2月19日（日）13～15 男性9名 女性1名
3月18日（日）13～15 男性8名 女性1名

成果

- 居住者の高齢化が進み、自治会の行事全般で先細り感がある中で、今回の活動で予想した以上の反応があった。
- 自治会の福祉活動への協力申し出者あり。
- 安心登録カード登録者が大きく増えた。
- 定期的な高齢者の集いの場ができた。

取組みを実施した中で注意した点・工夫した点

①より多くの人に、わかりやすく伝える

- 説明会の広報は、長寿会（約80名）全員への案内状配布、各階段下（132か所）への掲示、自治会ニュース（全戸配布）でのお知らせを行う。
- プロジェクターを使用した説明を行う。
- 説明の他、資料配布。知人にも渡したいとの希望する人に後日渡す。



②高齢者の話し合いの場づくり

- 知人の輪を通じて高齢者を集め、自治会の福祉活動や地域での支え合いの大切さを説明した。新聞切り抜きを使用して、孤独死について、地震対策について等を説明。
- 一人暮らしで誰とも話をしないと不安になる。定期的に話し合える場があれば少しは安心できるということで、今後毎月第3日曜日の午後1時から集まることにした。



平成24年度以降の取組み

- 今後も市と連携し、都度説明会などを行い広報する。
- 自治会でも「福祉対策委員会」を中心に居住者に呼びかけを行い、利用希望者、活動協力者を広げる。

取組みを継続するための課題等

- 説明会等に出てくる人は比較的元気で周囲との付き合いがある人が多いと思われる。このような会に出てこない人、出て来れない人の中に福祉活動が必要で、周囲との付き合いがない人がいると思うが、そのような人が出てくるようにするにはどうしたらよいかなかなかよい方法がない。
- 活動を行う人自体も高齢の人が多いため、今後少しでも若い人への広がりが出るような活動を考える必要がある。

遊びをととして子どもと高齢者の交流

南足柄市・pp@seisho(ピーピーアットセイショウ)

地域の概要

団体名 pp@seisho(ピーピーアットセイショウ)

活動内容：西湘地区住民等による住民組織。年間数回のプレイパーク(冒険遊び広場)を実施。

目的：子どもが安心して、ありのままの自分でいられるように、子どもの遊びを保証する。また、子どもだけではなく、あらゆる人が自分らしく、のびのびといられる場を作りたい。「自分の責任で自由に遊ぶ」というモットーに「遊び」というキーワードを通して、たくさんの人がつながれる場を創りたい。

地域名 西湘地域(小田原市・南足柄市・足柄上郡・足柄下郡)

地域の概況：県下でもマイカー占有率が高く(50%)、バス路線の廃止が相次ぎ、住民はほとんど自家用車で移動。西湘地区は平成7年をピークに人口が減少。高齢化率は平成23年で約24%。

課題

- 西湘地区は、山や海に囲まれ豊かな自然に恵まれているが、そうした自然を子育てにうまく活用できていない、子どもの遊び場という観点から見ると、地域における身近な公園などが十分とは言えない状況があった。
- 世代間交流ができる場が少ない等の地域の関係の希薄さも気になっていた。

取組みのきっかけ

- 以前から子どもの遊び場づくりを進めてきたが、高齢者の持つ力をもっと地域のためにも活用できないかと考えた。

取組みの内容

取組みの概要

- 子どもの遊び場プレイパーク活動に、高齢者の参加を促す取組みを行った。
- 学習会「地域でつながる遊びの伝授」
- アートあしがら「遊び絵日記ワークショップ」プレイパーク開催
- プレイパーク(中部公民館)

開催回数等(実施期間 H24. 1. 13~H24. 3. 26)

- 学習会
2月5日(日) 参加19名
- プレイパーク
2月26日(日) 参加65名
3月10日(土) 参加34名

成果

- 遊びを通じて、無理のない地域の交流の一步を踏み出す事ができた。

取組みを実施した中で注意した点・工夫した点

①事業の準備・広報

- 学習会・見学会参加（先進地域の見学）
- 会場下見、焚き火使用許可申請等
- 昔遊びを教えてくれる講師を探す。
- 行政等に声をかけ、活動のPRと参加の呼びかけを行う。
- チラシ配布、ブログ等の広報。
- タウンニュースに掲載された。



②高齢者にとってのやりがい

- お手玉を見事に披露され、子どもたちの羨望を集め、おはじきのルール説明では、若いお母さん方もメモを取るほどの盛況ぶりだった。
- 犬の散歩で通りかかった高齢者が、足をとめて火起こしのアドバイスをしてくれたり、ベーゴマを懐かしんで、立ち話をされていた方もあった。
- 高齢者にとっても、子どもたちに工具の使い方を教えたり、真剣勝負をしたり、皆のために焼き芋を作ったりといったことが、自分自身を元気にし、生きがいとなっているという声も聞かれた。
- 学習会での「絵日記ワークショップ」では、子ども時代の話を知ること、皆さんどんどん雄弁になり、貴重な話が聞くことが高齢者にとっても我々にとって有意義な場になった。



平成24年度以降の取組み

- プレイパーク活動は継続。
- 地域の自治会、老人会、社協などへの声かけは、今後検討していきたい。

取組みを継続するための課題等

- 中には、活動の中で子どもに怪我をさせたらどうするのかといったことを気にして、なかなか思うように焚き火や昔遊びをさせられないという声もあった。
- 今後は「自分の責任で自由に遊ぶ」というプレイパークの大切な理念も理解していただき、多くの人をお誘いしたい。